

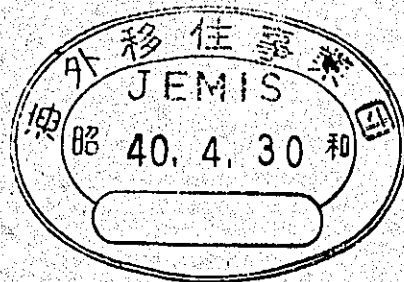
8-14
45

漢科室

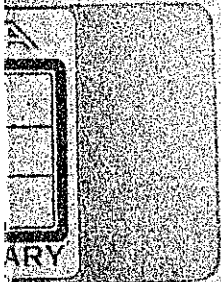
調査資料 No. 50

学生の南米調査報告書

昭和40年3月



海外移住事業団



国際協力事業団

受入月日 '84. 9. 13

703

24.5

登録No. 14862

EM

ま え が き

日本学生海外移住連盟は、昭和35年以来、毎年、全国加盟大学の中から真摯な情熱ある学生を選抜し、南米に派遣している。

彼等が1年間にわたり、習慣・宗教・人生観・生活様式等の異なる現地の人々と直接接触し、邦人移住者と同一条件下で労働に従事することは、大学での講義や書物を通じて得られるものとは異なつた貴重な体験といえる。

われわれは、彼等がこの貴重な体験を通じて、彼等と同一世代の青年のみならず、広く一般の人々に対しても、海外移住およびラテン・アメリカについて理解と認識を深めさせるよう活躍することを期待している。

同連盟が、昨春第5次実習調査団を派遣するにあたり、当事業団は、同団員の宮本修・島田孝一両君に対し調査を委託した。

本報告書は両君の調査結果である。

その内容、表現は必ずしも元分とはいえないが、両君の貴重な体験に基づく本報告書を1人でも多くの人々に読んでもらい、中南米や海外移住に関心を持つてもらふよう期待し、印刷に付した。

なお、種々の困難な環境下での両君の努力を多とし、今後の活躍を期待する。

昭和40年3月

JICA LIBRARY



1024480[4]

企画調査課長

目 次

1. ブラジル国マト・グロソン州を
中心とした畜産業の現状と将来 1
2. ブラジル国邦人移住地における協業化の実例 25
3. アルゼンチン国における日系企業
進出の可能性 39
4. ブエノス・アイレス市近郊における
花卉栽培、養鶏業の経営問題 53

ブラジル国マツト・グロツソ州を 中心とした、畜産業の現状と将来

宮 木 修
(鹿児島大学農学部)

(はじめに)

ブラジルの牧畜業は、牛の飼育頭数ではインド及びアメリカ合衆国に次いで世界第三位にある。そのブラジルの牧畜業が、ブラジル国内の農業部門の中で、どんな地位を占めているかといえは、その激しいインフレの中でも、かなり安定した経営を示し、政府も大きな保護を行っている。

日系人がブラジル農業界に著しい活動を示していることは、今更、論をまたない所であるが、それは、蔬菜及びその他の農作物の生産部門及び鶏卵・鶏肉の生産部門に於てあつて、牧畜業に於ける進出は、他の民族に比べてかなり遅れているといえる。

それは何故であるか？ 私はその点を解明しようと思いマツト・グロツソ州の牧畜業(特に牛について)を調査した。

以下に述べるのは、ブラジル畜産業の第一線で活躍されているルイス・ソアレス・アンドラーデ氏の多大な御援助を得、氏がマツト・グロツソ州南部に持つている牧場で実習調査した結果の牧畜事情をまとめたものである。

1. マツト・グロツソ州南部の牧畜の歴史的・社会的事情。

(1) セルトン社会

マツト・グロツソ州はアマゾン流域やゴヤス州と同様に、昔から文明にとり残されたセルトン社会であつた。セルトンという言葉は、ブラジル国全面積の3分の2を占める奥地の特定の地域社会をいう。

この地は砂金やダイヤモンドを求めて集まつた者達や、奴隷時代に、エンジェニオ(砂植キヒ栽培農場)からの脱走者や囚人によつて開かれた地万である。その当時から牛馬を放牧した者があり、それが現在に於ても、旧態然と続けられている。

(2) グレーバ、ファゼンダ、ロチアメント、方式。

1900年前後のサン・パウロ州コーヒー栽培最盛期に、大土地所有者は、グレーバ（大可耕地）を分割して、ファゼンダ（大農場）を作った。そしてコーヒー生産がある地域に於て、一種の飽和点に達すると、コーヒー栽培者は、既設の鉄道の延長や、新しい鉄道の敷設に伴つて、州内の他地域や、未開地へと進んでいった。

資本家によつて組織された殖民会社、土地会社は、強力な政治力を背景として原始林のグレーバを安価に購入して、これを小商品生産農家に売却した。これをロチアメント・システムという。

つまりグレーバ分割は

ファゼンダ形式（大土地所有者）

ロチアメント（小農業者）

という二つの形態をとりながら中間的、投機的土地所有形態の発生のもとに開き、ロチアメントの実施は、同時に経済的に新しい意義を持つ開拓の進展を意味するものとなつた。それがサン・パウロ州内に伸び切つてしまうと、1930年前後から隣接のパラナ州、ゴヤス州、及びマツト・グロツソ州へと伸びて行つた。

結局マツト・グロツソ州の牧畜業は以上の様なセルトン社会から発したものと、グレーバ分割という、二つの形態が、かみ合わせられた地域にあるといえる。

私の実習したノーバ・アンドラジーナ郡は、ルイス氏の先代が後者の方式で開いた町で、氏はすでにサン・パウロ州、ノロエステ線の奥地を開き、その町アンドラジーナ市は、現在では有力な地方都市となり、経済、文化の中心地となつている。

2. モーラ・アンドラーゼ氏経営牧場、Fazenda Primavera

(1) Fazenda Primavera の概説

Fazenda Primavera はサン・パウロ州とパラナ州とガバラナ河で境されている位置にあり、1952年、先代モーラ・アンドラーゼ氏は、この地域、約2,000,000ha（ヘクタール）を購入、Fazenda Primaveraを含めた三つの農場とロッテ（ロチアメント・システムにより区画された耕地）を作り、中心部に町を建設した。町造りの方は、市役所、発電所、水源地、病院、警察署、公園などを自己資金で建設、町の中を小さく区切り（タツタ）、売り出している。

1961年7月、バタガス郡の管轄から独立して、ノーバ・アンドラジーナ郡となり、現在発展の一途をたどっている。

国内に散在する12のファゼンダ・肉加工場などを持つ会社の重役のルイス氏は、このノーバ・アンドラジーナ郡を担当している。会社の本部がサン・パウロ市にある関係で、1ヶ月に2〜3度、自家用飛行機で行き来し、農場には常任の支配人を置いて、管理させている。農場内は、ルイス氏や支配人の住む立派な邸宅を中心として、150家族の労働者(コロノ)住宅や農場附属設備、教会、学校、球技場、売店、ホテル、港などがある。(表2参照)

そして農場は3つの会社が入り運営されている。

④ Moura Andrade 会社

Fazenda Primavera を含む3つの農場の経営。

0 支配人、Teuthy Saares Leitao 氏

⑤ Andrade e Lima 会社

農場内や町の売店、給油所、製材所などを経営。

0 Moura Andrade 氏と Gerald Lima 氏の共同経営。

⑥ Navegacao Fluvial Moura Andrade 会社

パラナ河の一部の航路権を持ち、各港の売店や給油所の経営。

0 支配人 Gerald Lima 氏

又本部や各州に散在する農場は、無線電話で連絡して、奥地の距離による障害を、自家用飛行機と共に補っている。

モーラ・アンドラーゼ会社の経営は、繁殖肥育、屠殺、加工、輸送販売の一貫体制をとり、当国畜産業に於て優位をしめているといえる。注目すべきことは、モーラ・アンドラーゼ氏の一族である。アウロ氏はブラジル国上院議長の重祿にあり、手腕のある政治家として活躍している。

Fazenda Primavera は牛の繁殖(Criação)と肥育(Eugordação)を請け持っているが、私が当農場に来て、まず感じたことを一口に述べると、『自然の光と温度と水を利用して、最少労働力によつて蛋白質源を生産する広大な工場』という印象であつた。

(図1 農場の位置と内図)

(2) 自然的事情

当地は夏季に当たる11月～3月の始めにかけて雨が多く、5月～9月の冬季は雨が少ない。このことは牧草の生育に関係し、肥育に影響する為、重要である。(8)の年間作業の項で述べる)

地形はサン・パウロ州や他の州とは一変し、平坦になり、土地の傾斜度は少なく、全くの地平線が展開する。そして大陸性気候が強くなる。

この牧場の有利な点は、放牧地に対して40%程度の低湿地(Varjao)があり、冬の乾燥期に於て、Varjaoに牛を追い込めば、放牧地の牧草(主にコロ=オン)を痛めず、年間を通じて肥育の状態を円滑にさせることである。VarjaoにはCapin Paugora Capin Nativo、Capin Capitubaなどの自生植物が繁茂している。

土性については、場所により大きな変化がある。酸性が強い(図2 参照)

土地を購入するオ一条件は、牧場の場合は水利であり、当地では森林の繁茂の状態でも決める。つまり、Pau d'álho, Pateiros, ipés, canelas, coração de negro, などの大木の自生の頻度、大小と牛の放牧許容力は比例する。それは、それらの繁茂の大なる所は、高い肥沃度を示すからに他ならない。

(表1 Nava Andradina郡の土壌分析)

(3) Fazeuda Primaveraの規模と施設

(表2 土地財産)

(表3 固定財産)

(表4 家畜資本)

(表5 農機具及び設備資本)

(表6 購入資本)

(4) 人事構成

(表7 人事構成)

(5) ファセンダの生産物

(表8 ファセンダの生産物)

ファゼンダー プリマヴェーラの位置と農場内図

(図ノ)

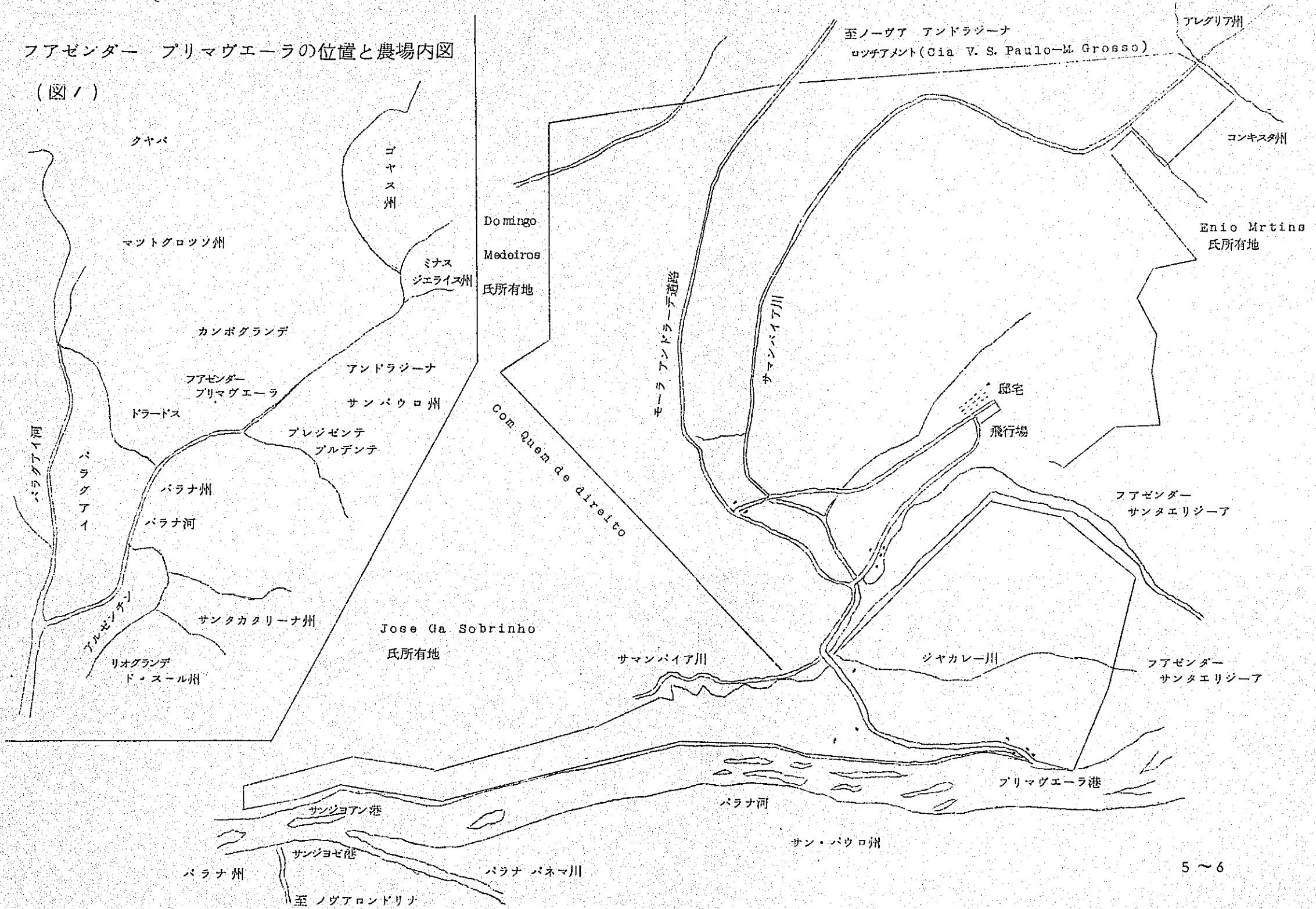
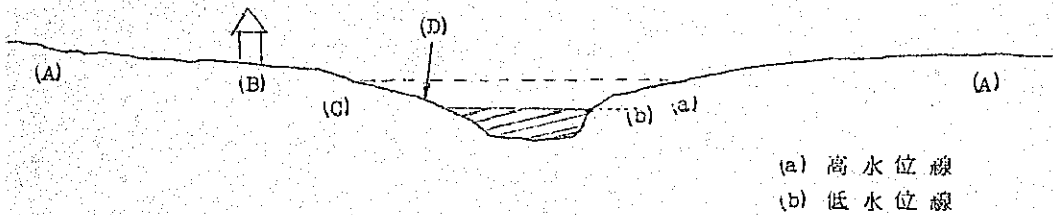


表1 MATO GROSSO州 NOVA ANDRADINA 郡の土壤分析

	(A) ESPIGÃO (可耕地)	(B) MEIA CULTURA (半可耕地)	(C) PINDARIBA (砂質湿地)	(D) PANTANAL (水湿地)
有機質(%)	1.66 (中)	3.07 (中)	1.06 (少)	34.89 (極大)
AZOTO TOTAL(N)	0.08 (中)	0.13 (中)	0.07 (少)	1.13 (＼)
PH	4.59 (強酸性)	4.61 (強酸性)	4.66 (強酸性)	3.50 (強酸性)
PO ⁴	0.16 (中)	0.29 (中)	0.12 (中の下)	0.33 (中の上)
Ca	0.62 (少)	0.60 (少)	0.68 (少)	2.89 (中)
K	0.12 (中の下)	0.13 (中の下)	0.12 (中の下)	0.21 (中)
Mg	0.12 (極少)	0.23 (少)	0.24 (少)	0.70 (中)
Mn	0.03 (中)	(少)	0.06 (中)	0.07 (中)

〔コチア産組農事部 豊田技師調〕



3) FAZENDA PRIMAVERA の規模、施設

a) 土地財産(表2)

総面積 71,000 ha

放牧地(CAMPO)	27,000	ha
水田地(ARROZAL)	7,000	→ ARROZAL IRRIGADO
森(MATO)	25,000	◇
湿地(VARJÃO)	1,000	◇
湖、河(LAGOA e RIO)	2,000	◇

b) 固定財産 (表3)

項目	建築方法	数	面積	備考
宅地	レンガ, セメント		500 m ²	ファゼンデイロ、支配人の邸宅
豚舎	木造		1.5 ha	
倉庫	〃	15		
車庫	〃	2		飛行機用も兼ねる。
牛舎	〃	10		搾乳用
製材所	〃	3		ANDRADE LIMA社経営
バター工場	レンガ	1		日産100Kg ~ 300Kg
発電所	木造	1		
売店	〃	2		ANDRADE LIMA社経営
学校	〃	1		
教会	レンガ	1		
事務所	〃	1		
診療所	〃	2		一つは歯科用
薬店	木造	1		
ホテル	〃	1		
散髪店	〃	1		
輸送港		3		パラナ河に面するもの、一番大きなのがプリマヴェーラ港
研究室	レンガ	1		獣医用
労働者住宅	木造	100		製材所労働者住宅も含む

c) 家畜資本 (表4)

動物名	数	備考
肉牛	20,000	
繁殖用メス牛	15,000	乳用牛をも兼ねる。
豚	3,000	
肉用山羊	150	
鶏	500	
役牛	50	
馬	250	
ラバ	60	

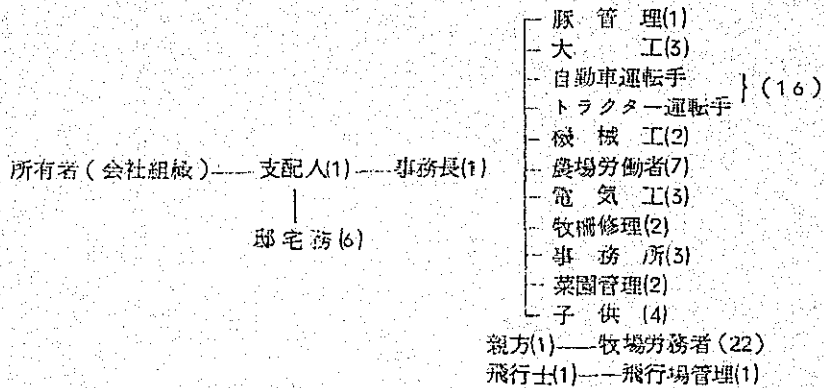
d) 農機具及び設備資本(表5)

項目	台数	時価(単位コト)	購入先	備考
トラクター		15,000	USA	
〃		8,000	USA	
耕耘機(トラクター用)	10(多輪)	2,000	USA	
除草機(〃)	4(4輪)	500	BRASIL	
大型ブルドーザー	8	15,000	USA	8トン
ブルドーザー	2	3,000	USA	5トン
ディスクハロー	1	2,000	USA	3トン
チェーンハンマー	1(8トン用)	5,000	BRASIL	8トン
〃	1(5トン用)	3,000	BRASIL	3トン
〃	1(3トン用)	2,000	BRASIL	
ジープ	4	3,000	BRASIL	ウイリス
運送用小型ジープ	2	4,000	BRASIL	ウイリス
中型ステーションワゴン		4,000	BRASIL	ウイリス
大型トラック	4	4,000	BRASIL	ンボレー
〃	1	1,000	USA	
荷車牽引用トラック	1	10,000	USA	
荷車	15			
軽飛行機	1	10,000	USA	
役牛用荷車	5			

e) 購入資本(表6)

品目	量(月当)	単価(クルセイロス)	備考
塩	150(袋)	4,000	1袋は60kg
ベタモラン	50(袋)	6,000	
クレゾール	30(l)	500	
抗生物質テラマイシン	30(kg)	20,000	
テラマイシン注射液	100(本)	1,000	
BHC	50(kg)	500	
ペネドクス	15(kg)		
ネオンドール	20(l)		

4) 人事構造 (表7)



註、 牧場関係の常勤農業従業者数は以上の通り計76名である。それに牧場作りや森林伐採、収穫、植付従業者数等の仕事は殆んど請負制でさせている。当牧場では常に10組程度いる。普通1組、8人~20人で組織されている。()内の数字は人数

5) ファエンダーの生産物 (表8)

1964年出荷物

去勢牛(3~4才牛)	-----	4 2 5 6 頭
雌牛	-----	9 4 6 〆
豚	-----	8 7 2 〆
バター	-----	1 0 0 ~ 3 0 0 Kg (日産)
山羊	-----	6 0 頭
他に雑穀(米、トモロコシ、フェジョン等)		

6) 牧場について

牧場を作るには、3月~4月頃、森林の木を伐採し、8月の乾燥期に火をつける。伐採については、当牧場では普通アルケール(2.4ha)当り、20~25人の労働者が入り、彼らは請負制のもとで労働する。点火は300アルケールで、14~15人の者が組んで行なり。(場合によつて大いに変動がある。)

山焼き後、トモロコシを植え付け、牧草と混作する。牧草は当地ではコロニオンが

番多いが、パンゴラも植えられつつある。播種する場合と苗を束で4 m間隔で植え付ける2つの方法がある。

翌年3月には、トモロコシの収穫を行う。それと同時に、牛を放ち、生長した牧草を喰わせる。牛は成熟した種子を土にちらばらせる。落ちた種子は更に牛の足により踏み込まれる。8月牛を外に出して、再び火を付け、牧野をきれいにする。そして芽を出した牧草は生長して、3ヶ月後には成草となるので、再び牛を入れる。

当牧場では2年に1度、牧野に火をつけ、牧草を更新する。

そして、120～130アルケールを単位に冊で区切り、300～350頭の牛を各放牧区へ放つて、大規模な輪換放牧の型をとっている。

(表9 当地のアルケール当り牛の許容頭数)

(表10 繁殖専門放牧区に於ける自然交配の種牛と雌牛の関係)

当地のアルケール当牛の許容頭数 (表9)

	アルケール当の許容頭数	アルケール当の価格 Cr\$	備 考
CAMPO NATURAL	1	10,000～20,000	自然草地(やせ地)
CAMPO SERRADO	1	10,000～20,000	雑木のある土地(やせ地)
MATO FLACO	2	100,000	低い木がならぶ森
MATO	5	150,000～200,000	大木の茂る森林(沃地)

繁殖専門放牧区に於ける自然交配の種牛と雌牛の関係 (表10)

放牧地面積(アルケール)	雌 牛 (頭)	種 牛 (頭)
50	200	15
100	200	20
200	200	25

当牧場のアルケール当りの許容頭数は平均3頭前後、良質の牧場地といえる。

繁殖専門放牧区に於て、種牛1頭につき15～20頭の雌牛を入れ、自然交配を行っている。

1頭の雌牛について15才まで生きた場合、平均して8回半の分娩がある(6割5分)。そして、立地条件の恵まれた所では10回の場合もある(1割程度)

7) 牛の生涯 (表11)

a) 雌牛の場合	b) 雄牛
<p>8ヶ月目 予防注射・焼印・乳離れ</p> <p>2年6ヶ月目 受精(一回目)</p> <p>3年3ヶ月目 経産(一回目)</p>	<p>8ヶ月目 予防注射・焼印・乳離れ、</p> <p>去勢、良牛と認められた</p> <p>場合、生殖用に保存し、</p>
<p>もし良い牛ならば保持する。 (普通80%)</p> <p>不良牛の場合5~6年で屠殺 (20%)</p> <p>ブラジルは5才以下の雌牛を屠殺 することは禁止している。</p>	<p>3年後交配、最大限12才 まで永続させる。</p> <p>3~4年目 屠殺</p> <p>屠殺量1.7アローバ。</p>
<p>12~14年間 合計8回の経産をして屠殺。 14~15アローバ (1アローバ1.5Kg) の屠殺量となりアローバ 当り6,000.00~7,000.00 Cr\$で取引される。</p>	<p>アローバ当り8,000.00~ 9,000.00 Cr\$で取引 される。</p>

8) 牧場の年間農作業 (表12の(1))

(1月) 温度 最高35℃ 最低20℃ 雨期

- ① トーモロシの収穫
- ② 牧野を長柄の鎌で整備する。

(2月) 温度 最高35℃ 最低20℃ 雨期

- ① トーモロシ、米、フェジンの収穫
- ② 牧野の整備

(3月) 温度 最高30℃ 最低18℃ 雨期

- ① 森林の伐採
- ② 牧野の整備
- ③ チーズの製造、(寒期に入つたら)バター製造は年中行つている。

(4月) 温度 最高25℃ 最低16℃ 少量の雨

- ① 森林の伐採
- ② 仔牛の焼印、予防注射、去勢
- ③ チーズ製造

(5月) 温度 20℃～8℃ 極少量の雨

- ① 仔牛の乳離し
- ② 森林の伐採
- ③ 当地周辺に於て、屠殺場への牛の輸送の多い時期
- ④ チーズ製造
- ⑤ 仔牛の焼印、予防注射、去勢(1964年仔牛の出産総計5086頭)
- ⑥ VARJÃO(低湿地)に火を放つ

(火を放つ事により若い新鮮な草を育てる。1ヶ月後には牛を入れる事が出来る。当牧場では7月～10月迄70%の牛を放牧する。)

(6月) 温度 20℃～8℃ 乾燥期

- ① 屠殺場への牛の輸送
- ② チーズの製造
- ③ VARJÃOに火を放つ

(7月) 温度 15℃～4℃ 乾燥期(暖炉が必要)

- ① チーズの製造
- ② 牛をVARJÃOに移動させる。(乾燥期に入り牧草 コロニオン
の成育が悪い為)

(8月) 温度 15℃～4℃ 乾燥期(暖炉が必要)

- ① VARJÃOへの牛の移動
- ② 乾燥期に入ったので3月、4月に伐採した森林の山焼をする。
- ③ 牧野は2年に一度火をつけて更新させる。

(9月) 温度 10℃～0℃ 時々-5℃迄降下する。乾燥期(月の終り頃少雨)

- ① 牧草の種を植付
- ② 南瓜、西瓜、落花生、コーヒー、甘蔗等の植付
- ③ 牧野の更新

(10月) 温度 25℃～10℃ 雨が定期的に降り始める。

- ① 植付を続ける。(殆んど全部の作物)

(11月) 温度 30℃～20℃ 雨が多くなる

- ① 植付を続ける。

(12月) 温度 30℃～20℃ 雨が多くなる

- ① 殆んどの植付を終らせる
- ② 牧草の苗を移植させる

(9) 品種について

当牧場の品種は疾病及び熱帯的気候に対して強い抵抗力をもつ？ ゼブー系統、ジール (Gir) グゼラー (Guzera) ネローレ (Nerole) インドブラジル (Indobrasil) 種であるが、ネローレは気候の変化、粗食に強く、強健で、死亡率が低く、早熟なので、飼養牛の大部分を占める。しかし反面、肉味、屠体率悪く、粗暴な所から、最近、当牧場にも欧米系の肉用牛を導入し、品種の改良を行つている。

サン・パウロ州政府の畜産試験場で命令したというカンシン (Canchin) がそれで、フランスのシャロレーの雄をネローレの雌を掛け合せたものである。

(表13 F、カンシン)

(表14 ネローレとカンシンの比較)

F、CANCHIN (表13)



試験の結果次の様な数字が出ている。

NEROREとCANCHINの比較 (表14)

	NERORE	CANCHIN
屠体率	50%	60%
屠体量	255kg	300kg
価格1頭当	130,000Gr\$	180,000Gr\$
生体重(3才)	540kg	600kg

このカンシンは気候にどのくらい順応するか疑問なので、試験所や篤農学によつて F₁, F₂, F₃ を作り出し研究している。

(10) 病気について

当牧場ではブラセラ病、口蹄疫、狂犬病の予防注射を生後8ヶ月目で行う。現在の所、牧野が新しく、大きな伝染病は見られない。ただ趾間腐爛の治療をすることがある。一般に病気の細部については無関心といえる。

(11) 農場内の生活

仕事は6時に始まり10時より11時まで中食時間、午後2時に30分間の休憩があつて5時30分に終わる。

労働者は70%が最低賃金(33コト一約7千円)であり、支配人や親方、事務関係以外は文盲が多い。

農場内には製材所の労働者と合せて150家族が住んでいる。この住宅地には学校、教会、クラブ、球技場などあり、小学校は3年生までの生徒の教育を受け持ち、一日3時間授業の三部授業(朝、昼、晩の3回に分けて行い)制度になつている。

週の木曜日、土曜日は、フット・ボールの試合をして、土、日曜日はダンスパーティを行ふ。月の才二日曜日には、町から神父を呼んで、ミサ(礼拝)が行なわれる。

売店は市価より少し高く、農場内で生産される牛乳や肉と同様、給料から差しひかれる。結局、金は農場自体に回収されていくというエンジェニオ(砂糖農園)時代の名残を感じて、興味深い。

農場から町(Nava Andradina)まで43Km、支配人Teutly氏が市長をしているので、隔日に往来する。その他、製材所のトラックやバス(日に一回)の便があり、利用している。

邸宅内では、サン・パウロ州の上流階級の人々の訪問が多く、彼らは狩猟や魚釣りなどで楽しみ、充分な休養を取つて帰つていく。その為農場内の出費の中で、接待費も多額にのぼる。邸宅内の生活は豪奢そのものである。

(12) 農場周辺の環境

農場はパラナ河に面し、河を渡れば、直ちにサン・パウロ州、パラナ州に入ることが出来る。Loteamento de Cia. Viação S. Paulo-Mato Grossoはチェコ・スロバキア人が9年前の1955年に土地購入、ロッテを売り出し、その町をBataiporãoという。

Nava Andradina市はFazenda Baile(モーラ経営牧場)の中であり、現在はBataiporãoの町を吸収する程の発展を見せている。

周辺の1,000~2,000アルケールのファゼンダは昔、Fazenda Baileの管轄下にあつたが1957年、モウラ関係者の個人経営農場として分離した。

ロッテ(農地の区画)とダッタ(町の区画)には、日本人50家族が農商業に活躍している。入植年数も、5年が最高という浅さにかかわらず、その成長振りは、ブラジル人の驚異的である。

イビエマ河を渡ると、当国畜産界で才一人者の日系人F氏の広大な農場がある。当当地の産菜は牛と木材、それに小中規模農家による雑作が主なものである。

(表3 農場周辺の環境)

(表15 Nava Andradina 郡の生産)

NAVA ANDRADINA郡の生産(市役所調 1964年度) (表15)

木材(丸太)	200,000m ³	エルバ・マテ	10,000kg
ク(製品)	10,000m ³	フェジヨン	30,000,000袋
落花生	25,000袋	バター	40,000kg
米	50,000ク	牛乳	240,000l
バナナ	60,000ク	トモロコシ	100,000袋
コーヒー	50,000ク	豚	3,000アローバ
甘蔗	200,000本	マモーナ	50,000袋
綿	12,000アローバ	牛肉	23,500アローバ

(13) 輸送、市場について

奥地の牧畜家にとって、一番の問題は、輸送である。

Fazenda Primaveraの場合、前述の姉妹会社、Navegação Fluvial Moura Andradeのイカダで、38時間かゝつて、パラナ河をのぼり、Primavera港よりIndependencia港(300km)を船送している。190頭積のイカダ2船を一度に利用するので、約15アローバの牛を380頭、輸送できる。

Independencia港から近くにある、Mouran屠殺場(Frigorifico)まで歩かせ、屠殺場に附属の牧場、Fazenda Guanabara(2万頭収容)で3~4ヶ月間休ませ、肥育後屠殺する。

Fazenda Guanabaraは瘦牛を肥育する専門牧場である。

屠殺場(Frigorifico)は毎日300~400頭の牛の処理能力を有し、生肉から加工

まで一貫作業で行っている。

輸送は Fazenda Primavera の場合、問題はないけれども、奥地の輸送について三つの方法がある。

- ④ Baiada vem por Terra (徒歩による輸送)
- ⑤ Baiada vem por Barrcada (汽車による輸送)
- ⑥ Baiada vem por Caminhão (トラックによる輸送)

⑥の場合の輸送風景は独特の風景として紹介されているが、この方法は、輸送者に一日の行程(ウン・マルシャル、18km、一頭いくらで契約する保健制と、引渡し場所いくらで契約する請負制との二通りがある。彼らは炊事係を混えた7人でグループを組んで、約2千頭の牛を移動させる。(場合により変化ある。)

徒歩による輸送は、牛の疲労が大きいので、200kmを最大限とする。その場合12～13日かかる。

⑤に依る輸送例 (表16)

場所、CORUMBA(MATO GROSSO 州奥地800km BOLIVIA との国境)
より、ANDRADINA(SÃO PAULO 州)

輸送日数 3～5日

輸送費用 450頭の場合233,000Cr\$

1,000頭の場合450,000Cr\$

輸送量 普通25(車輦)×18(1車輦当の牛数)=490(頭)一頭当の目切約
15kg

	CORUMBAでの 買値 Cr\$	CORUMBAでの 体重 kg	FAZ GUNABARA での肥育期間	屠殺前の 体重 kg	屠殺時の 値段 Cr\$
2才牛	50,000	270	1年半	480	128,000
3才牛	60,000	300	1年	480	128,000
4才牛	85,000	380	6ヶ月	550	140,000

⑥による輸送は、近くの牧場に於て肥育した牛を直接、屠殺場に運ぶ場合が多い。一台の積載量15頭。

以上④⑤⑥の方法により輸送が行なわれるが、肉用の牧場は、繁殖専門の牧場(奥地に多い)、繁殖、肥育の両方を行つている牧場、肥育専門牧場の三つに別けられる。屠殺場附近には、その肥育専門の牧場が多数あり、その経営は一種の商業的感覚を必要として、仲買の仕事も兼ねている場合が多い。

奥地の小牧畜業者は、よくこの仲買業者に買いたたかれる場合がある。

(14) ファゼンダの将来と意見

① 細分化の方向

遺産相続、経営不振のため、又農業近代化のために、今後この種の、大規模なファゼンダは細分化される。

② 「広いがために、後進性を持つ農業」からの脱皮

今後の農業は収益の高度化を求めている。アルケール当1〜3頭の牛の生産では採算に合わぬ時がやってくる。

それ故、草地改良の研究がオーの問題であろう。

2. 日本人による牧畜業進出の問題点

(1) どうして牧畜業が有利か

① 肉牛の繁殖について

オ一年度に雄牛3才のものを100頭、種牛3頭を導入した場合、その仔牛は生長して、4年目より販売が始まる。

10年間の売却数量 470頭、所有頭数 575頭になる。つまり年数が経過すると共に、牧場規模は大きくなる。

② 労働力が少なくてすむ

普通一人の牧場労働者(カンペイロ)に500頭〜1000頭の牛の管理が出来る。又飼養頭数が多くなれば、それだけ一人当の管理能力は増し経営管理費が安くなる。事実J氏牧場は600アルケールに2,000頭の飼育を5家族の労働者で管理している。

Fazenda Primaveraの場合一人当、1500頭の管理をしていることになる。

③ 生産費が安い

②と関連するけれども、普通牧野作りの経費を除いて、生産費を概算すると、労賃、薬品代食塩などは生牛の価格の3割も見れば充分といえる。そうすれば100,000,00クルセイロスの売価ならば70,000,00クルセイロスの利益となってくる。

④ 価格が他の作物と比較して安定性がある。

現在、国内に於ても十分に需要能力があり、大都市周辺では値上りの傾向がある。又外国の市場を見ても、供給量は益々不足の状態にある。

牧畜は他の作物と比べ市場に出すまで時間がかかり、従つて価格の変動に柔軟性を示す。

④ 当国政府の畜産振興対策

ブラジルの農産物で最も政府が重要視しているものは、コーヒーと、牧畜であり、融資の問題も、ブラジル銀行などが積極的である。

(2) 当地日本人会での座談会にて

Nava Andradina 郡に在住の日本人50家族と、私が実習調査中に座談会を開催して、この種の問題について意見を交換した。それをまとめてみると、

① 日本人は肉牛の放牧式飼育について経験がなかつた。それに大動物の扱いに慣れておらず、性格的に合わない。

② 牛を飼う場合、最低50アルケール以上必要とし、日系人の場合、その所有面積が狭く、繁殖数と土地面積が一致しない。

つまり、有畜農業もよいけれども、まだそこ迄の段階でない。

③ 都市近郊では土地代が高く牧畜業（肉用牛飼育）は採算が合わない。さりとて、奥地に入ることは子供の教育問題から考えても思い切れない。

④ 利潤回収の早い農業でないので金をつぎ込めない。だからといつて、資金の回転を早めることを目的とした肥育専門牧場を開いても、小規模の場合、仲買商に買ったたかれる危険がある。

⑤ 小規模の農業経営では、雑作その他の作物の方が土地当りの収益が多きい。

(3) 結 論

牧場経営を行なう場合、当初の資金の問題に集約される。

当地に於て牧野建設の資金は表の通りである。

(表17 アルケール当の牧野建設費の概算)

土地購入費	200,000,000	クルセイロス
土地登記費	25,000,000	
森林伐採費	50,000,000	
牧草種子代	6,000,000	
整備費	15,000,000	
木冊費	70,000,000	
雑費	20,000,000	
計	386,000,000	クルセイロス

つまり、アルケール当40万クルセイロス（日本金8万円相当）かかり、その上住宅、倉

庫などの建設費、機械購入費、並びに牛の購入費を計上していくと、最低限度の専業による牧場経営が出来るまでには莫大な資本を必要とすることがわかる。

現在日本人の中にも、幾人かの大牧場経営者がいる。

彼らの牧場経営を始めた動機も調べてみると、

- ① コーヒーの値の大変動期に乗じて資金を得、それを機会に牧場経営に転向した。(F氏の場合)
- ② オ二次大戦後の動揺期に帰国の夢を追つて安価に売却された日系人の土地を買い集めて牛を放つた所、それが自然に繁殖して、基礎が出来た(Y氏の場合)であつた。彼らはいずれもブラジル農業界の変動期に幸運をつかんだ。

現在のように一応安定した姿になると、資金なしに牧畜業を始めることは不可能に近い。たゞ一つの道は、政府や財界から大資本を導入することによつてのみ牧場経営を始めることが可能となるのである。

ブラジルは各国移住者によつて出来上がり、それらの競争によつて成長している。

牧畜業を問わず、大きな事業を興すには、確固たる資金的背景のもとに計画すれば、未来の国と称される当国に於て成功の道があると思われる。

おわりに

以上、私の報告書はブラジル奥地の肉牛を中心に書いたものだが、畜産業といえば、養豚、養鶏など範囲が広い。

しかし焦点をしぼるために、これらのことを省略したことを、お断りする。

たゞサン・パウロ州に於て日本人による養鶏業がすばらしく発展して、その主導権を握っているということは喜びにたえない。

実習調査にあたって種々便宜を供与下されたモーラ・アンドラーゼ氏並びに当地日本人会、その他多くの方々に感謝の意を表する。

参 考 文 献

ブラジル史——アンドラ・センバチ著

ブラジルの日系人——斉藤広志著

獣医大典

畜産の研究

畜産経営相談——占野 靖年著

農業と協同——コチア産業組合刊行

Manual de Microbiologie

Microscopia Clinica

Dr. Victor Godinho

ブラジル国邦人移住地における 協業化の実例

宮 本 修
(鹿児島大学農学部)

(はじめに)

ブラジル農業界は現在大きな転換期を迎え、「安定性のある農業経営」「考えねばならぬ農業経営」の必要性が提唱されている。

そのため、邦人農業者は当国政府諸関係団体との接触の必要性を持ち、各産業組合の技術員は急激に増員され、当国農業に対し適切な指導を行なっている。

それでは、なぜそうなのか？

それは生産過剰気味であること、当国労働法の複雑化と、労働賃金の高いことから、労働力確保が困難になつてきたこと、専門化の進展、それに、資本を確得するための信用が、仲々得られないこと等が挙げられる。

今日のマット・グロッツなどの奥地の開拓方式は従来のそれと比べて当然進歩した方式でなければならぬ。それは、農業経営に於て、以上述べた条件の他に流通面の不利や他の多くの要素(教育問題など)を凌駕するだけのものでなければならぬ。

一人による農業、株一貫による農業はすでに当国の新しい移住形態として適当でない。

そこで、私はブラジル農業事情に適した経営方式を考える時、オーに考えられるのは協業化の問題であつた。

現在当国邦人移住者が、この件に関して如何に実行し、方向づけているかを探つてみた。

調査例はサン・パウロ州2、サンタ・カタリーナ州1、リオグランデ・ド・スール州1、青年による協業化、親族単位によるものである。

協業化の例

(I) (実例1) オリエンテ共同農業企業組合(開発青年隊による協業化)

1. 共同経営の設立

オリエンテ共同農業企業組合はリオ・グランデ・ド・スール州の首都ポルト・アレグレ市から西北600km地点にあり、隣国アルゼンチンへは60kmという国境の町サンタ・ローザ

市の近くにある。この町ではドイツ、ポーランド、白系ロシア系統の所謂欧州移民によつて拓かれた町で、雑作、養豚を中心に平均土地所有面積25haの中級の地主が多く、当国の農業地帯としては最も安定したところといえる。

オリエンテ共同農業企業組合の構成員は建設省が主体となつて日本国内の国土開発と海外発展を目指す青年群を育成しようとした開発青年隊の隊員11名(1人は例外)よりなる。

隊員はパラナ州、セラードス・ドラードスでの訓練所で1年間研修の上、ブラジル社会へと飛び立つのであるが、1960年その才2期生5名は当地へ入植、国境守備隊へ供給するための野菜作りを始めた。続いて2年目は2名をその兵舎に残して更にドイツ系地主の農場へと入植、3名により歩合制による米作を始めた結果、かなりの利益を上げることが出来たので、3年目に同じ青年隊7期生5名とその他1名を仲間に加え、合せて11名の共同組織を作つた。

組合員の考えは事業を興す場合、1人の力が如何に微力であるかを考え、投機的な方法をとらず地道なやり方によつて基礎を固める。つまり、実績を重ねるといふやり方を選んだ。過去の日本人移住者達が行なつてきた、個々ばらばらで、投機的無計画な農業経営が現状では許されなくなつて来ていると云う点を深く反省して、当組合の組合員達は苦しい時代に手を取り合つて出発し、組織を強化してあげば、終局には、これが大きな組織力となると確信している。

それ故、機構は完全共同体であり収支、農作業、炊事一切共同である。組合員の年齢はまだ若い。平均26才、最近結婚式を4組挙げた。今年中に残りの青年達も結婚の運びになるという。

表1 組合員の経歴と職務分担

名前	年齢	出身県	学歴(専門)	職務担当	部門	将来の希望
佐野	29	大阪	大学・総合農学	事務外交	オリエンテ農場事業部	組合を完全なものにする事
脇坂	29	大阪	大学・畜産	雑作(一年前・養鶏主任)	〃	牧場経営
浅田	26	福岡	高校・畜産 人工授精師	雑作主任	〃	〃
宇嶋	28	宮崎	高校・畜産	雑作	〃	農場経営
鈴木	25	新潟	高校・普通	水田	〃	牧場経営
田辺	24	高知	高校・林学	水田	〃	サンタ・カタリーナ州での果樹園経営
益田	22	静岡	高校・機械	雑作(トラクター運転)	〃	初めは機械・修理等を考えていける。経営を考えている。
松村	29	群馬	高校・商業	水田	雑作事業部	商業(仲買商)方面進出
大桃	24	新潟	高校・普通	水田	〃	種苗関係の仕事(生物学に興味を投じている。)
岩井	28	群馬	高校・畜産	雑作	養鶏事業部	肉牛牧場経営
伊藤	28	秋田	高校・普通	雑作	〃	農産加工業

組員個々人はブラジルに渡つた時の夢があり、その実現はぜひはたさねばならぬ。やがては加工、流通方面にも進出していく形態の組織的活動を考えている。

2. 協業化の規模と内容

(1) 出資

組員出資は当初の5名の野菜、水田作りによる収益が土台となるが、後に参加した6名の組員も差別的条件なしに合流した。

組員の考えは「組員はもともと無資本であり、2年や3年の遅れは長い生涯に於て問題でない」としている。

現在、当農場は日本政府の拓殖資金6口(1口30万円、2年据置き10年払い)、移住事業団農業融資1,100万クルセイロス、ブラジル銀行60万クルセイロスの融資を受けている。

(2) 機構

オリエンテ共同農業企業組合は本部をオリエンテ農場事業部に置き組員11名は昨年度まで次の3部門を担当していた。

- a. オリエンテ農場事業部—5名—独立体(サンタローザ)
- b. 雑作事業部—2名—借地制(ギルア)
- c. 養鶏事業部—4名—歩合制(サンタ・ローザ)

※ 一昨年度まであつた水田事業部は発展解消され、オリエンテ農業事業部に含まれた。しかし本年度より当国農業事情の変化と農場の経営進展による改革がなされ次の様になつた。

a. オリエンテ農場事業部

1964年5名による稲作の2年契約による歩合作で入植した土地の契約を終え、地主により売りに出されたその土地を移住事業団の融資1,100万クルセイロスと養鶏収益を合わせた資金で購入した。当農場は組合所有のものであり、今年度より新規に行つている事業である。

その経営目標は、当農場を企画的農場のモデルとして育成しつつ、組合の目的達成の資金源とすると共に、組合の将来の発展に備えて伸びのある経営方式を行なう計画である。

即ち当初は利潤回収の早い機械化に適した作物を主体として経営の発展を計りなが

ら、一方では、将来に備えて試験研究の場を設け、可能な限り果樹、及び大家畜の導入、研究を行う、又当初は、危険性大なるものを極力避けて安全策の途を講ずる様に考慮している。

表2. 農場の主要施設、機械および農場内土地利用内訳

- 農場面積 205ヘクタール 境界には牧柵があり、一方の境界には道路、一方には河川がある。

内 訳	{	耕地面積 180ヘクタール	
		水田地 10ヘクタール	
		畑地 165ヘクタール	大豆90ヘクタール トモロコシ45ヘクタール
		敷地、牧場、森林地 60ヘクタール	

○ 主要施設、機械

- 住 宅 3戸
- オ一倉庫 10,000袋収納可能(トタン屋根)
- オ二倉庫 肥料格納室 2,000袋収納可能 1室
農薬格納室 2,000袋収納可能 1室
機械格納室 2室
- 車庫、修理室 トラクター15台格納用(ひざし部分を利用している。)
- 豚舎 1棟 10頭飼育可能
- XI入れ機 1台
- トタクター 25HP(FORD) 1台
- トラクター 50HP 2台
- 播種器 荒起し器、畦切り機、除草機 各1台
- モーター 3.5HP 1台
- 背負式噴霧機 3台
- 鋤 6丁

○ 主要家畜

- 役牛 2頭 豚 2頭
- 馬 2頭 鶏(自家用)
- 肥育用牛 5頭
- 乳牛(自家用) 1頭

表3. オリエンテ農場第一年度事業計画

部門別品目		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
水田部門	水田 (15ha)	生育				收穫				耕作			蒔付		
主雑作物部門	小麦 (100ha)	收穫				耕				蒔					小麦は蒔作の關係上5月下旬一6月下旬にかけて20ha内外を蒔付けする
	大豆① (50ha)	收穫								耕					①は小麦の蒔作に栽植
	大豆② (25ha)	收穫								蒔					
副雑作物部門	トモロコシ (5ha)	收穫								耕					この3種は種子の確保と労働力の配分を目的として行い。大豆(ブレーメ)は多年性の豆科植物で将来性が見込まれる。
	落花生 (5ha)	收穫								蒔					
	雑豆 (1ha)	收穫								耕					
	フェージョソノ豆 (1ha)	收穫								蒔					
大豆(ブレーメ) (1ha)	收穫									蒔					
果樹部門	果樹の最適地に育種程度の準備を行う														
飼料部門	砂糖キビ	肥育牛	5頭	(仔)											ミカン スモモ 桃 ユーカリ ブドウ 柿 クルミ、クリ等
	アルファルファ (1ha)	豚	5頭												森林及び牧場30haの内、果樹用と飼料作物用に各々必要だけ拓いてゆく予定。
	牧草カタマラ	養鶏	約200羽	(成鶏)											
キ	ユ														
牧場の改植															

図1 組合員佐野氏による組合運営構想

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">植民地農業協同組合</div>	完了																											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">土木部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">機械部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">拓殖部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">研究部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講売部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">保健衛生部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文教部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">運輸部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">倉庫部</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">加工部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">製事部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水産部</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">果樹花栽培者組合</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">穀作組合</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">畜産組合</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	土木部	機械部	拓殖部	研究部	講売部	保健衛生部	文教部	運輸部	倉庫部					加工部	製事部	水産部							果樹花栽培者組合	穀作組合	畜産組合			五段階
土木部	機械部	拓殖部	研究部	講売部	保健衛生部	文教部	運輸部	倉庫部																				
				加工部	製事部	水産部																						
				果樹花栽培者組合	穀作組合	畜産組合																						
<p>(プレジジョン開発事務所)</p> <p>(機械製作所)</p> <p>(機械修理所)</p> <p>(農産加工所)</p> <p>(総合農業研究所)</p> <p>(バナナ小組合)</p> <p>(小麦小組合)</p> <p>(養豚小組合)</p> <p>(果樹園芸小組合)</p> <p>(花卉園芸小組合)</p> <p>(米作小組合)</p> <p>(特用作物小組合)</p> <p>(養鶏小組合)</p> <p>(林業小組合)</p> <p>(蔬菜小組合)</p> <p>(一般作物小組合)</p> <p>(酪農小組合)</p>	四段階																											
<p>(土木グループ)</p> <p>(機械グループ)</p> <p>(試験研究機関)</p> <p>(養豚グループ)</p> <p>(果樹園芸グループ)</p> <p>(養鶏グループ)</p> <p>(蔬菜グループ)</p> <p>(一般作物グループ)</p> <p>(乳牛グループ)</p>	三段階																											
<p>(試験研究機関) (養豚グループ) (蔬菜グループ) (養鶏グループ) (一般作物グループ)</p>	植民地建設二年度																											
<p>キャンプ</p>	植民地建設一年度																											
<p>青年隊本部、農拓協</p>																												

b. 雑作事業部

本部オリエンテ農場より3km離れたギルア(Girua)にあり、本年度初めて米の歩合作に入った。これは従来の借地による雑作が資金の不足で行きづまり、水田の方が収益が高いことを見つけたからである。

現在8haの稲作で1ha当り70俵の収穫が見込まれている。

契約は借地料として収益の20%を地主へ供出する。

担当2名

c. 養鶏事業部

本年は当国養鶏界の不況、特に飼料代の高騰により、一時中止を余儀なくされた。

1962年ブラジル人の失敗したものを引き受け8月より組合員2名により開始、11月に入り2名の増員と1名のブラジル人雇用青年を入れて軌道に乗せた。契約は歩合制をとり、組合側は技術と労働力を提供、経営者側は必要施設の他資金として100万クルセイロスを提供した。組合員2名はサン・パウロのコチア産菜組合で3ヶ月間実習してその万全策を講じ、優良品種の購入や必需品の調達を行い、初生ヒナを購入して70日内外の飼育後肉用鶏として出荷した。その後事業は順調に伸び、本年度12月期にその事業を中止するまで、施設の半分と200万クルセイロスが組合の収益として残った。勿論、養鶏事情の好転と共にその事業は再び行われる。

現在は4名の組合員の内2名はオリエンテ農場事業部へ転出し残った2名によつて3年契約の雑作の歩合を行つている。

これは経営者のツング(油桐)(25ha)栽培の労働力を提供して大豆、トーマロコンの間作を始めた。この栽培についての出費は種子代と労働力だけである。

組合の方針は、雑作は利益があがらなくとも契約の関係で棄てることが出来ないが、今後十分研究して有利な所はこれを確保するも、不利な所は(他の作物と比較して)これを他人に引き渡すか、又就労人員を減らすかして対策を講じて行くつもりである。

3. 生活面における共同化

「一つの目標に向つて組合員が進む時、個人的生活面に於ける最少限度の共同は当然である」という立場で共同炊事、消費物資共同購入を行つている。

共同生活に於て不平、不満が起ることは人間として当然なことであるが、そんな場合、互いに話し合い「一時的に感情的対立が生じて、決して共同精神を失つてはならない」とい

て互いに戒め合う。

共同生活は秘密のない生活を信条とする。

組合員の配当については本組合を一世帯として考え、すべての経費は農場負担で行なう。

個人的出費は組合の会計を通して支払われ、決算期に一年間の個人出費の最も多い人の額規準としてそれ以下の出費の人には、最も多い人の額から差引いた残りが配当される。

収益の余剰金は改めて配分するのが立前であるが、今の処組合へ還元して極力繰越すように努めている。

組合員の主婦は炊事に従事し、州の最低給料の20%を月給として支払われる。

又組合は、組合員の生活費（主に食費）の一部を、換金作物の野菜の売り上げでまかなっている。

4. 共同経営と地域社会との関係

リオ・グランデ・ド・スールという欧州移民の勢力の強い地域に日本の青年が裸で飛び込み、わずか5年目には自分の土地を所有し、機械化による生産性向上を行なっていることは驚異的である。彼らによつて組織されているこの組合は構成員の協力的な態度によつて維持されており、今後益々発展してゆくであろうと思われる。この組合の発展は現地の人々の日本人に対する評価を決定する要素を多分に含んでおり、構成員の双肩に大きな責任がかかっている。

リオ・グランデ・ド・スールのこの地域に最近入植した邦人20家族を含めて一大産菜組合へ発展する夢を実現すべく、彼等は考えている。それは、当地の農産物を握っている仲買商の不当なる利潤追求が、正常な農業発展を組んでいるからである。

5. 組合についての問題点

① 労働配分と能力評価の問題

組合員の労働は各部門や職種、さらに季節的なかたより等により平均していない例が随処に見られる。

その場合「割り切る精神」と「最低労働を見ならうな」ということを信条として解決している。又能力評価については、評価する人物がいなくてもあるけれども、学力や経験の有無、体力など全て平等に扱っている。

しかし、今後組合の多角化にともない、これを如何に処理するかは問題とならう。

② 主婦達の私生活と共同意識の問題

昨年農場購入と同時に、4人の組合員は、日本とアルゼンチンより花嫁を迎えた。今年中には未婚の組合員の大部分が花嫁を迎える様子であるが、今後、主婦達が完全共同化について如何なる意識を持つかが問題である。

③ 組合員加入、脱退の問題、

もし、新入組合員を迎えた場合、資格として、はたしてどの様な条件で迎えるかの問題である。又、脱退する場合、財産配分について如何に処理するか今のところ具体的方針がない。

過去に於て、当組合は一人の脱退者があつた。それは本人が組合精神に徹し切れぬことを自覚して、組合員の了解を得たとのことである。当時は未だ財産がなかつたことであり、案外とスムーズに行われた。

④ 社会保障的施設建設の問題

現在、組合には独身寮の施設があるが、組合員の結婚と共に独立住宅を建設する必要にせまられてきている。又家具などの附属物の整備も必要であり、そのための経費も見込まねばならない。これらの近い将来必ず起つてくる問題と農場の拡張計画とを如何に調整して行くかが、当面の問題として重要な位置を占めている。

⑤ 組合員の希望職種進出による問題

前述の通り、当組合は、農業以外の他の職種にも組合員の希望により進出をはかることになつてきているが、それを円滑に進めるには、どの様に行なうか、具体的条件、時期、優先について如何に調整するかが問題である。

終りに

創立以来、幾つかのけわしい道があつた。そして今、又多額の融資金の返済期限が迫つてきて苦しい時期を迎えている。私は、当組合員の中に一種独特の空気があることを感じたのである。目的達成のために、湧き出るエネルギーは時には爆発することもある。そしてこの爆発は組合を更に発展させて行く。

今後才2、才3の組合農場設立に多くの努力を傾注するとともに、個人経営農場及び他の職業への進出にも配慮し、援助しなければならない。そのためには、益々、創立当時より蓄てられてきた共同意識の持続を必要とする。結局、この組合を論ずる場合、それは才三者の立場でなく、実際に組合の一員として飛び込んで見なければわからないと思つた。

しかし、なんといつても創立5年目にしてこれだけの発展振りを示したことは事実である。

そして、この協業の背景を探るに種々のよき条件が存在しているといえる。

- ① 組合員の教育程度がいずれも高く、同じ団体教育（開発青年隊）を經由し、同じ様な環境の者が平等に出発したこと。
- ② 当地の農家の全てが自作農であり、そのため一般労働者が不足の状態にある。
労働力提供を条件とする当地農業者との間の借地、歩合契約を行なう場合、好条件で迎えられたこと。
- ③ 日系人社会と離れた所にあり、周囲の意見にまどわされずにいることなどが挙げられる。

結局、それは、協業制度という軌道に協業精神に徹した仲間を乗せたことが最大の原因であろう。

〔Ⅱ〕〔実例2〕 計画移住地における協業化

（ガタバラ、ラーモス両移住地における親族の協業化、二つの例）

サン・パウロ州モジアナ線ガタバラ移住地は、1962年農拓協、JAMIC、コチア産業組合の三団体によつて水田作を主体とする営農方式をとつて計画された移住地である。

一方、サンタ・カタリーナ州、ラーモス移住地は、州政府の農業振興政策の一環として、JAMICと提携、1963年に建設、入植を始めた。

両移住地ともその月日は新しい。

この移住地の中で親族を基として協業経営を行つている例を見た。

両移住地共、入植月日が浅く、まだそれについて感想を述べる段階でない。しかし、労働力の豊富なことで、単独の入植者と比べた場合、非常に営農の進行していることに驚く、つまり、その点に於て両方とも現段階ではうまくいつているのではないかと思つた。

（表4参照）

表4

	カタバラ移住地(サンパウロ州)	ラーモス移住地(サンタ・カタリーナ州)
代 表 者	S氏 日本では農業協同組合の組合長をしていた。	K氏 アメリカの農業視察経験を持つ大学法学部卒
	戸 主 家族数 稼働力	戸 主 家族数 稼働力
	S (43) 4人 2人	K (35) 3人 2人
	M (33) 4人 1人	W (34) 5人 2人
	O (38) 5人 2人	J (32) 9人 3人
	K (22) 5人 1人	
	関係 注、主婦の労働を含めず実際は稼働している。 S — O 親友の中 (日本では2.5町歩の地主) S — M 兄弟 M — K 奥さん同志姉妹	関係 K — W 義弟 K — J 義弟 W — J 義兄弟
入 殖 動 機	1964年6月、日本でも専業農家であつたが日本農業の行きすまり状態を見越して渡伯、機械化による大規模な農業経営の実現を考えた。	渡伯3年目、始めリオ・グランデ・ド・スール、ポルト・アレグレ州近郊で野菜作りをしていたが、日系農家による過当競争の状態に見切りをつけ、安定した果樹栽培を考へ1964年5月当地へ入殖した。
土 地 解 入	一戸当耕地面積1.25haを日本金68万円で解入支払完了、更に水田地土地造成費として一戸当り約90万円を必要とする。	州政府の植民地であるため、土地代一戸当り(家込み)2.5haを3年据置き10ヶ年払いで1,999,000.00クルセイロスCr\$で契約、非常に安価なものである。
耕 地 面 積	90ha	75ha
主 要 生 産 物 予 定	稲、果樹、雑作(トモロシ、落花生) 養鶏	野菜、果樹、雑作
現 状 の 作 付 状 況	落花生、トモロシはオー一回植付完了	換金性作物、野菜(トマト、パレイシヨ)のオー一回出荷をする。果樹の苗木を仕立てている。
協 業 部 門	部分協業、労働、出荷の参稼 炊事は別	全面協業、共同炊事など一切
利 益 配 当	生産物が無いので目下検討中	俸給制
出 荷 先	コチア産業組合	ラーモス移住地産業組合
	①ブラジル生活に日が浅く営農の見通しがかぬ。 ②予想外に頭初の資金投下を行った ③土地が肥沃でないため、頭初から施肥農業を行つている。 ④耕地の配置が一ヶ所になく、労働に不能率を来たし、又一つの耕地が小区分されている為、機械化による農業が生かされぬ。	①土地代が安いので助かっている。 ②果樹は生産まで月日が必要なので換金作物を生産する事に追われている。 ③指導者K氏の理論で遂行されている。 ④周辺が農業地として追われている為、独立の市場開拓を行なわねばならぬ。

〔Ⅲ〕 ブラジル・マツト・グロッソ州において邦人移住者の協業化の例を見ることが出来なかつた。

ただ、移住事業団による計画移住地バルセア・アレグレに於て、米、雑作を主体とする農業経営を行なつている27戸の農家による養鶏部門のみの産業組合形式による共同出荷、共同飼料購入の例を見た。

それは、私が例を挙げた「協業」についての範疇に外れるけれども、とにかく「組織」を利用した結果、その組合に参加しなかつた農家に比べて、多くの有利な面を持つた経営が行なわれていた。

ブラジル奥地（マツト・グロッソを含めて）の農業は非常に遅れているといえる。そして、そこで農業を行なう場合、作物の選定から販売まで全て独自の開拓を必要とする。その意味で、一人だけでの開拓は不可能に近い。そこで協業形式という「組織力」を利用して行くことは邦人移住者の自立化への一方法として当然挙げる事が出来る。

おわりに

ブラジルの事情を調査する場合、農業非農業を問わず、非常に複雑なものがある。それは、この国が広大な面積を持ち、各地域社会というものが単独に存在し、横との結びつきに薄いことである。

私がここに述べた例は夫々、全く異質の社会的背景を持つて成立したものである。

ブラジルに於ける邦人の協業化の例は昔から数例を見ることが出来る。しかし、その70%は失敗して、発展的解消の姿ではなかつた。その原因を考察するに、人間の協調精神の問題が大部分であり、指導者の能力、それに当国に於ける協業化の歴史が浅いことも挙げられる。

しかし、結局、私が今、云々出来る問題は「組織の力」が資本の少ない移住者にとつて、又複雑化する当国農業界に於て、いかに大切なことであるかということである。協業形式による移住はその方法として検討するに価するものであろう。

(参考例)

ツマザ農事相談所

大学卒移住者の独立の一例

(1) 共同経営の設立

近年ブラジル特にサン・パウロ州内の農業は、従来の無施肥による移動農業から施肥の定着農業へと移っている。それは定着により、その定着した地域社会の社会的信用を得、精神面の安定、子弟の教育上の問題から集約農業の有利性が認識され始めたことに起因する。

プレシデンテ・ブルデンテはサン・パウロ市より約600km、牧畜と雑作、バレイシヨ栽培者の多い地帯である。

そこでツマザ農事相談所は集約農業に合った農事指導を行いながら、肥料、農産物を販売することに着目した。仲間は3名、ツマザという名は彼ら3名の頭文字を取つたものである。

仲間のリーダー格であるT氏は35才、大学では土壌学を専攻、渡伯12年目である。渡伯当初、当地の日系産業組合の技師として働いた後、ドイツ系農薬肥料の大会社、バイエルの販売監査役の仕事に従事した。そして当地域(奥ソロカバナ地方)の売り上げの増加を果して会社の信用を得た。その後独立して、この会社の請負販売業(代理業)を始めて、5つの店を開き、夫々を共同の型で管理している。

そしてツマザ農事相談所はその中の一つである。

S氏(25才)はT氏の大学時代の後輩にあたり、渡伯後4年半、初め日系産業組合の技師として働いたが、T氏の呼び掛けで仲間に加わつた。専門は園芸である。M氏(34才)は渡伯後9年、米系会社の農事試験場で育種の仕事に従事した後、T氏がバイエルの監査役時代、彼の元で、Vendedor(セールス)を始めた関係で結び付きを持つた。

1963年6月、バイエル会社から1,500トンの農薬を借入、9月、10月の収穫期に金が入るのを目当てにそれを農家へ販売した。その間、資本がないため、バレイシヨの種籾を売つて3ヶ月間の空白をうめ、入金後、資金の回転が始まつた。

(2) 共同経営の内容と組織

当初は300万クルゼイロスの資本金で発足、T氏30%、S氏25%、M氏35%を出資した。

T氏の関係する他の4つの店とは常に連絡を保ち、技術交換、共同仕入、資金の援助を計り、組織力を活用している。特に仕入については商品の90%の購入先であるバイエル会社に於て特別の恩恵があり、農薬500トンを買えば、あとは会社で無料で農薬、肥料の配合をしてくれるのでコストダウンをして、競争相手の店とたちうち出来ている。

又、店の特長として、夫々仲間が専門を持ち、それが各仕事に於て役割を果たし、又、互いが経営者の立場にあるので、仕事に対して非常に積極的であることである。

業績は順調に伸びを示し、去年は2億クルセイロスという驚異的売上げを示した。

そして今年度(3年目)は5億クルセイロスと2倍半の売上げを予定している。

一昨年9月、2人の店員を月給制で雇い入れ昨年9月には、Vendedor 1名、M氏の助手1名を売上げによる歩合制で採用した。各自、車を持ち、出張販売をしている。販売先は初め当地域周辺に限られていたが、現在では北パラナ州、マツト・グロツソ州まで伸び、行動半径300kmを広範囲に渡っている。

T氏は、5つの店の総元締であり、M氏は北パラナ地方販売担当、M氏は当地周辺と店の管理を担当している。

得意先は日系人が70%で総売上げの40%を占め、大遊場所所有ブラジル人30%、総売上げの60%となつている。

3人の利益配当は月給制と売上げ額による歩合制である。

(3) 経営上の諸問題

ブラジルの経済状況が過度のインフレによるため、一般経営者と同様、商品の購入と販売とのバランスの調整がむずかしいことが、オーの問題となる。その他、事業の拡大と共に当国の法律の複雑性と相まって、会計の煩雑化を生じ、会計事務所などに依頼することが多く、この方面の研究が必要である。

本年の6月には5つの店が合法的に一体化して、行く予定であるが、それを如何なる形態で行うかが当面の問題と聞く。

感 想

大学卒業者の都市に於ける独立の方向として、一つの貴重な例であろう。それは無資本で技術を有する者たちが組織力を利用して伸びて行く方法をとつている。結局彼らの事業がブラジル側からも歓迎されながら成長するのであるから、申し分ないと思われた。

アルゼンチン国における日系企業 進出の可能性について

島 田 孝 一
(早稲田大学政経学部)

◎ 序

アルゼンチン国(以後亜国と称す)に於ける日系人の産業活動を考える場合、亜国の政治経済的動向が不安な要素を多く含んでいることや、またすでに確立された経済的基盤を持つている米国資本や欧州諸国の資本の存在が日本人の企業進出をむずかしくしているのがわかつた。今日、日本人移住者の最大の受入国であり、また日系人の活躍のめざましいブラジル国(以後伯国と称す)と比較した場合、亜国の日系人は数こそ少数ではあるが、亜国自身の持つ可能性を考慮する時、日本人の企業進出は決して伯国に劣るとは言えないものがある。ところが亜国に於ける、日系人の産業活動は、その大部分が洗濯機、花卉栽培に限られているのが現状である。これは、経済的、社会的事情により生じた現象であろうが、日系人の産業活動の殆んどが、この種のものであるという現状は、伯国に於ける日系人の活躍ぶりや現在の日本の経済的発展ぶりからみて、何故か納得のいかないものを感じる。

以上のような問題点より、日本人の亜国に於ける企業進出の可能性について考察してみたいと思う。

(一) 最近に於ける亜国経済の分析

昨年(1962)の10月、イリア政権により、拡大均衡政策と言われている経済開発5ヶ年計画が発表された。その計画の中で次のように述べられている。すなわち、国内総生産は、最初の2年間に於いて、既設の設備利用により高速度の成長、回復(1963年を'62年に比べて5.7%、人口1人当り4%の成長率)を遂げ、その後の成長率は、約5%に維持することを予見している。又、国際決済バランスは、計画の全期を通じて対外負債の償還及び利子支払を1870百万ドルと見越し、それに計画年度末に於ける外資導入を加えると、負債残高は1190百万ドル

ルとなり680百万ドルの改善となるが、新規負債取付け制限の適派を持續し国際機構と、諸外国政府並びに供与諸会社よりの融資期限が平均12年以下の短期にならない様にすることが必要である。ところで、1964年の経済状態について考察すると、62年、63年より、景気は上向きの傾向にあると思われる。しかし、亜国工業連合（UNION INDUSTRIAL ARGENTINA）のように、この政府の経済政策は、慢性インフレと、政府の干渉主義に駕いされて一般の経済状態を徐々に悪化させていると批難している例もある。更に、昨年4月に発令された為替制度の改定（政令2581 '64）、輸入及び対外取引決済の制限（つまり、今年1月に決定された輸入供託金制度の実施）、昨年10月の資本財の輸入に関する政令など、それらは、全て、外国為替の投機並びに資金の海外流出を阻止し、通貨の安定化を図る目的で発令せられたものであるが、実際には、業界の経済活動範囲を制約するという逆効果をもたらしてしまつた。そして、通貨発行高は、約800億ペソに達し、又、最近、給料法の施行により大幅の賃金引上げをもたらしている。それともない、国庫の赤字は1100億ペソより1500億ペソに、増大しようとしており、これは年間の輸出総額に相当する額である。亜国政府の1965年～69年までの国際決済バランス見通し表は第1表のとおりである。

第1表 1965年～69年 国際決済バランス見通表 単位百万ドル

	1965	1966	1967	1968	1969
輸出	1,400	1,412	1,462	1,500	1,545
通常輸入（資本財を除く）	750	800	858	862	904
貿易バランス帳尻	650	612	604	638	641
利子サービス	-184	-136	-111	-132	-145
	466	476	495	506	496
対外債務償還	-626	-473	-325	-239	-207
官庁セクター（ネット）.....	-360	-311	-208	-161	-144
民間セクター	-266	-162	-117	-78	-63
原料輸入短期追加金融	25	10	10		8
1964年度繰払輸入決済.....	-25				
輸入以外のクレジット.....	55	18	4	4	
対ウルグアイ国穀物委員会クレジット.....	4				
(A)使用可能残高.....	-101	31	182	271	297

	1965	1966	1967	1968	1969
資本財輸入	-133	-383	-393	-391	-361
新投資関係技術サービス支払	-9	-11	-15	-17	-15
直接投資	35	30	30	30	30
スペイン国債務	15				
対外クレジット (註1)	283	339	278	241	250
新規クレジットのサービス		-27	-67	-112	-160
償還		-11	-32	-61	-97
利子		-16	-35	-51	-63
(B)資本財輸入残高	-9	-57	-167	-249	-259
準備高のバリエーション	-110	-26	15	22	41

(註1) 国際機構及び供給諸社の長社金融にして1965年及び1966年に現金部分支払いを必要としないものを含む。

〔二〕 ある日系人 中小 企業よりみた企業進出の観察。

〔一〕 では連年の当面している経済上の問題について、不完全ながら、説明を試みたが、今度は角度を変えて筆者が実習の際見聞したことを中心に、日系の企業・一般経済社会について考えてみたい。現在、日系人口は、一世が約15,000人、二世、三世を含めても約40,000人以下である。そのうち約8〜9割は沖縄出身者である。前述の如く彼等の職業の大部分は、洗濯器と花卉栽培であるけれども、将来の日系人は、これら以外の産業にも指向すべきであると思われるので、ここでは他の日系商工業についてみる。

連年の日本人商工会議所の会員の内容を見て驚いたことは、日系人資本による企業はほとんどないことである。(日本調よりの出資による企業進出も本格的なものは、日本毛織、日本水産、大洋漁業の三社位である。) しかし、全くない訳ではなく、“辻商会” “亜南物産” “島津商会”等の割合小さいが、しつかりした会社がある。この中、“辻商会”という会社は、陶器製造メーカーであるが、この種の企業は、ほとんどが中小規模のものであり、日系人の比較的進出し易い分野でもある。筆者自身が実習していたのは、やはり、この種のものであつたが、直接に、陶器を製造するのではなく、いたつて小規模の陶器絵付工場であつた。親会社ともいふべき、辻商会、PORCELANA AMERICA、PORCELANA NIPPON 等

の陶器製造会社より、製品を委託され、それに絵付したり、その製品を販売に出したりするのがこの会社の仕事である。この工場の経営は、2人の共同出資で、資本金300万ペソ、従業員8名である。仕事の内容は、日本のこの種の企業の技術と比べて、全く幼稚なものである。必要なものは、絵付紙とそれを焼きつける電気釜位である。あとは、その絵付紙を陶器に貼りつけたり、あるいはF I L E T E (線引)するだけの女工員とその技術である。この仕事に要する費用は、電気代と給料位のものである。あまり資本が要らず、その上、資金の回転が早いので、この種の仕事は、比較的日系人の手の出し易い商売である。以前は、この種の競争相手が少なからずあつたらしいが、近頃では、プエノスでもほとんど日系人で占めるごくわずかなものしかない。この種の企業の問題点は外部経済に大きく左右されることである。すなわち中小企業にとっては、いつも問題となる、親会社への依存と云うこと及び貿易事情によつて需要が相当左右されることが挙げられる。貿易為替事情が悪くなると、政府は輸入禁止と云う処置を取り、この種の商品を国内の企業のみで、その需要を満たす必要があり、結果的に生産活動は活発となるのである。このような小規模の工場が合併或いは吸収により、その企業規模を拡大していくことは進むべき方向として考える必要があろう。

前述の如く、亜国に於いての窯業技術は低く、その製品も一般家庭実用品向である。従つて日本の伝統的な、そして優秀な技術で、既成のこの種の亜国の企業に対抗していく余地は十分にあるといえよう。その上、粘土の原料も上質のものがあるといわれている。

(三) 日本からの企業進出の可能性について。

① 最近に於ける外資導入状況

亜国では、1958年から、外資導入法(法律1478号)と工業助成法(法律14781号)を基軸として、工場の新設又は機械、設備などの生産要素に対しては、輸入税、課徴金の免除などの特典を与えることによつて国内の工業の振興が図られてきた。このことは、二つの法律の施行細則を定める政令に於いて、その後6年間に、何十回も発せられ、さらに、それについての修正令をも加えると、ほとんど数え切れない位の政令が出されたことからみてよく理解されよう。イリア大統領は、経済開発5ヶ年計画の中で、工業について、“鉄鋼、紙、セルロース、化学、石油化学工業に於ける輸入代替プログラムを推し、1969年には、中間財250万ドルの輸入外貨(ネット)を節約する。”と述べている。以上の

事情から考えて、亜国がもつとも助成優遇して行かなければならないと云われている、前述の三つの分野についてその現状および外国企業進出状況をみてみたい。

② 鉄鋼部門について

鉄鋼部門は、助成優遇工業の中でも、もつとも重点の置かれている部門である。亜国に於ては、はつきり云つて、軽工業はあるが未だ重工業はないと云いえよう。亜国の工業化にとって最重点と云えるであろう鉄鋼部門では、最近の外資導入はどのような経過をたどっているかをみてる。(第2表参照のこと)

次に5ヶ年計画の中で発表されている、1969年の国内需要、生産設備能力及び生産量に関する予想を、次の第3表及び第4表で示す。

第2表

会社名	製造品	生産高トン	投資総額ドル
SIDERCA S. A	製 鋼	150,000	22,500,000
ACINDAR S. A	還 元	540,000	
	製 鋼	530,000	118,000,000
	圧 延	680,000	
ACEDOR WITTEN S. A	製鋼第一期	20,000	
	" 二期	20,000	14,000,000
	圧 延	50,000	
PIPINO Y MARQUEZ S. A	製 鋼	39,000	2,100,000
	圧 延	12,000	
LAMITRAFIL S. A	製 鋼	50,000	2,600,000
	圧 延	45,000	
ACERIA BRAGADO S. A	電子鑄造	2,280	700,000
MARATHON S. A	製 鋼	6,000	
	鍛 造	4,800	6,900,000
	電 板	1,800	
TAMET S. A	製鋼第一期	35,000	
	" 第二期	90,000	2,350,000
	圧 延	95,000	
ALARANDINA SIDERURGICA	製 鋼	600	800,000
ALTOS HORNOS GUEMES S. A	還 元	25,000	1,000,000

会社名	製造名	生産高トン	投資総額ドル
SIDERURGICA	還元製鋼	215,000	
GURMENDI	圧延	200,000	52,000,000
	線材	40,000	
LOFRAH S. A.	製鋼第一期	1,500	?
	" 第二期	3,000	
SANTA S. A. ROSA	製鋼	42,000	
	圧延	42,000	10,000,000
	伸鉄	35,000	
SIDERURGICA	バルブ	4,350	
TERMEC	鋳鋼	3,510	3,600,000
CORIALSA S. A.	圧延	?	1,500,000

第3表

品名	国内需要	生産能力	生産量
銑鉄	1,792,200	2,557,000	?
鋼塊	3,162,100	3,082,500	?
圧延製品	2,324,100	?	2,173,000
鋳物製品	344,200	450,000	344,200

第4表

鉄鋼生産量及び需要量 (単位トン)

鉄鋼種目	年1962	1965	1969
A) 国内生産			
銑鉄	396.5	910.0	2,557.7
鋼塊	617.6	1,623.5	2,797.9
圧延成品			
鋼板	34.7	547.8	657.0
帯鋼	18.1	87.3	122.7
ブリキ		50.0	130.0
形鋼	90.5	267.5	363.5
軌条		37.0	100.0

鉄 鋼 種 目	年 1 9 6 2	1 9 6 5	1 9 6 9
ワイヤロープ	1 7 8.8	1 9 8.5	2 7 9.8
丸 棒	2 1 2.5	2 0 9.1	2 9 8.0
そ の 他	8 3.9	7 1.4	1 0 2.9
継目無鋼管	8 9.3	9 2.3	1 2 0.0
鍛 造 品	4 5.0	1 2 2.6	1 3 6.4
鋳 造 品	1 4 6.2	2 5 3.2	3 4 4.2
B) 需要総量 (註1)			
粗 鋼 換 算	1, 9 9 5.2	2, 8 5 2.2	3, 8 5 8.9

(註1) 機械類及び鉄鋼器具を含まず

ところで、1963年度末までの鉄鋼業の外貨導入は色々と異つた振興制度による恩典の下に、第2表に示す15社がなしたもので、この中にSIDERGA社の22.5百万ドル(製鋼15万トン)、あるいはACINDAR社の118百万ドル(生産合計175万トン)又GUERMEN社の52百万ドル(生産合計45.5万トン)というように極めてスケールの大きいものも見られる。

⑤ 石油化学部門について

工業生産の増加率が、他の先進諸国に比べて、遅れていることは事実であるが、その中でも化学工業生産は非常に遅れている。特に、石油化学になると産国に於いては、現在、皆無に近い状態である。ところで石油化学部門における、1963年度末までの外貨導入は、9社でなされ、製造品目は35種にいたり、この9社の生産する4品目(ガス合成品、触媒変性剤、ペンデン、タール)を主として、合計約100万トンの生産がなされている。各社の生産目標(第5表参照)、石油化学製品年間生産達成量(第6表参照)。

⑥ 製紙、セルロース工業部門について。

産国で紙、セルロースが不足しているのは、誰れもが知るところであるが、実際、外貨導入に於いて、もつとも注目を浴びている部門は、この製紙、セルロース部門であろう。1963年度末までのこの種の企業進出は、全部で15社で、大部分は既設々廠の拡充を目的として、企業進出に関する規則に準じて外貨導入の認可を受けている。地域別には、

第5表

税 関 制 度	会社名、製造品名	生産高 トン
5039/61	PETROSUR S. A	
	アンモニア	33,000
	尿 素	20,700
	硫 酸	73,000
	硫 安	70,000
	過 磷 酸	50,000
	配合肥料	30,000
	メタノール	13,200
	フオルマリン36希	13,200
	尿素系可塑粉剤	3,300
	尿素接着剤	3,300
5039/61	CABOT ARGENTINA	
	カーボンブラツク	13,000
5039/61	I P A K S. A	
	エチレン	13,000
	ポリチレン	7,000
	エステレンモノマー	15,000
	ポリステレン	5,000
5039/61	ATANOR S. A	
	合成用ガス M3	19,200,000
	メタノール	7,200
5039/61	OJA CASSO	
	メチルアルコール	12,375
6130/61 2325/62	INSUPA S. A	
	苛性ソーダ	14,000
	塩 素	12,250
	塩 化 石 灰	4,000
	トリクロールエチレン	1,500
	塩化ビニール	2,500
	ヘキサクロールシクロエクサン	2,500

振興制度	会社名、製造品名	生産高 トン
5338/63	IMPAGRO S. A.	
	アンモニア	100,000
	硝酸アンモン	35,000
	尿素	40,000
6130/61 2325/62	硫安	35,000
	C. I. de ALCALIS	
	炭酸ソーダ	200,000
	水酸化ソーダ	60,000
5039/61	重炭酸ソーダ	12,000
	PETROQUIMICA ARGENTINA	
	触媒変性剤	日間 M3 1,767
	ベンジン	" M3 113
	ブタダイエン	32,000
	タール	日間 M3 205
	SBRゴム	35,000
	エスチレン	14,000
	GIS-POLIBゴム	10,000
	ゴム処理中間産物	2,000

第6表

品 目	トン数	品 目	トン数
アンモニア	133,000	トリクロールエチレン	1,500
メタノール (精製)	13,200	塩化ビニール	2,500
フォルマリン36%	13,200	ヘキサクロールミクロエクサン	2,000
尿素	60,700	硝酸アンモニア	35,000
尿素系可塑剤	3,300	硫酸アンモニア	105,000
尿素接着剤	3,300	炭酸ソーダ	200,000
カーボンブラツク	13,000	水酸化ソーダ	60,000
エチレン	13,000	重炭酸ソーダ	12,000

品 目	トン数	品 目	トン数
硫 酸	73,000	SBRゴム	35,000
過 燐 酸	50,000	CIS-POLIBゴム	10,000
配合肥料	30,000	ゴム処理中間産物	2,000
ポリチレン	7,000		
エステレンモノマー	29,000	品 目	噸
メタノール	7,200	合成用ガス	1,920,000
メチルアルコール	12,375	触媒変性剤	644,955
苛性ソーダ	14,000	ベンジン	46,545
塩 素	12,250	ター ー	74,825
塩化ソーダ	4,000		
ブタダイエン	32,000		

第 7 表

社 名	投 資 額	所 在	備 考
(1) Celulosa Arg SA	1,369,656,000ペソ	Zarate	稼 働 中
(2) Delta Industrial SA	?	Zarate-Campona	計 画 中
(3) Celulosa Jujuy SA	?	San Pedro	拡 張 計 画
(4) Papelcint SA	?	Campana	“
(5) Papelera Pedotti	?	Campana	“
(6) Celulosa Bell Ville SA	?	B. Ville (ホルドバ)	計 画 中
(7) Ledesma SA	13,126,098ドル	Ledesma (フアイ)	建 設 中
(8) Papel Misionero SA Mixta	?	Posadas (ミツギネ)	計 画 中
(9) Ind Arg del Papel	427,269ドル	Almafuerte (ホルド)	拡 張 計 画
(10) Adamas SA	1,919,713ドル	San Justo (フアイレン)	“
(11) Oep SA	5,848,000ドル	Baradro	認 可 済
(12) Sehcobnik	4,457,295ドル	?	拡 張 計 画
(13) Fcbroquimica Arg SA	2,774,300ドル	San Lorenzo	認 可 済
(14) Celulosa del Sur SA	70,000ドル	Torunquist	“
(15) Papelera Arg SA	?	Bernal	“

第8表

製紙、セルロース工業、製品及投資額

振興制度	会社名 製造品	生産高(トン)	認可令
8141/61	Celulosa Argentina		2252/62
2077/62	セミケミカルパルプ	21,000	
	コートドペーパー	24,000	
8141/61	Delta Industrial		2253/63
2077/62	ケミカルパルプ	42,000	
8141/61	Celulosa Jujui		2254/62
2077/62	ケミカルパルプ	15,000	
	クラフトペーパー	15,000	
8141/61	Papelcint		
2077/62	ケミカルパルプ	45,000	
	クラフトペーパー	16,000	
8141/61	Papelera Pedotti		2256/62
2077/62	ケミカルパルプ	30,000	
	紙、原紙(特殊用途)	39,000	
8141/61	Celulosa Bell Ville		12317/62
2077/62	セミケミカルパルプ	36,000	
	紙	36,000	
8141/61	Papel Misionero		7383/63
8141/61	長繊維セルロースパルプ	30,000	
	短 " "	10,000	
	製袋用紙	27,000	
	特別包装用紙	3,600	
	裏打厚紙	3,600	
	ニルゲート厚紙	1,900	
8141/61	Ind Arg de Papel		8319/62
2077/61	長繊維セミケミカルパルプ	4,500	
	厚アートペーパー	6,000	
8141/61	Adamas S. A.		8320/63
2077/62	機械パルプ	1,500	
	セミ機械パルプ	4,500	
	特殊用紙・厚紙	6,000	
8141/61	Cep S. A.		8321/63
2077/62	セミケミカルパルプ	22,000	
	クラフトペーパー	14,000	

振興年度	会社名 製造品	生産高(トン)	認可令
8141/61	Schcolnik S.A		8322/63
2077/62	セミケミカルパルプ	6,000	
	クラフトペーパー	9,000	
8141/61	Fibroquimica		8324/63
2077/62	セミケミカルパルプ	5,175	
	薄紙	4,500	
5338/63	Celulosa del Sur		8825/63
	セミケミカルパルプ	6,000	
	薄厚紙	7,000	
	防水紙	1,000	
	厚紙	4,500	
	その他の紙	1,000	
5338/63	Papelera Argentina		8978/63
	セミケミカルパルプ	15,000	
	クラフトペーパー	30,000	

第9表

製紙 パルプ生産計画量

品 目	トン数
ケミカル・パルプ	163,000
セミケミカル・パルプ	140,635
機械パルプ	1,500
クラフト・ペーパー	143,000
特殊紙類	59,000
コートド・ペーパー	24,000
厚アート・ペーパー	13,000
ナツシユ・ペーパー	4,500
薄紙	4,500
その他の紙	1,000

全国各地に分散しているが、主要工場は殆んど、ブエノス・アイレス州（カンパーナ、サンベドロ、サラテ、パラダエロ、トルンキスト、バルブル）に集中している。主要品目はケミカルパルプ、木パルプ、クラフトペーパー、コンダイトペーパー、チツシュペーパー、その他特殊用途の紙及び厚紙等で、合計約50万トン生産している。各社の投資額、生産高（第7、8、9表参照）

以上、三大助成優遇工業の鉄鋼、石油化学、製紙、セルコースと表により各部門の外資導入の状況を述べてきた。

② 今後の日本からの企業進出のあり方について。

ブグリエセ経済相は最近の記者会見で次のように外資導入を説明している。すなわち、国内の民間貯蓄が不十分であるから、外資の民間投資を必要とすることは勿論のことであるが、従来の苦しい経済を反省してみるに、無秩序の外国投資は許されるべきではなく、又国際機構を通じての金融は可能であるけれども、企業、労働、政界の各界が協調し受入れる性格のものであることが必要である、と強調した。従つて、企業進出は、亜国政府の経済再建策にマッチさせながら、又、国家的な助成策を受けつつ進出すべきであろう。なぜならば、私企業の単独進出を考えた場合、資金的にも、又、リスクの点からも、おのずからその限界がある。では、日本政府は、企業進出に対してどのような対策をとつて行けばよいのかを考察してみるに、例えば、進出企業に対する財政資金に依存する資金援助、つまり、日本輸出入銀行、海外経済基金等による完全な融資制度の確立が必要であろうし、又、進出企業許可申請に対する日本政府の許可条件の緩和及び許可手続の簡素化が必要であろう。実際、日本政府は、日本国自身の将来の立体的な経済発展というものに対する認識が浅く、ともすれば直接的利益のみに走りやすい。もつと長い目で見た日本の利益を考えて、もつと現地にとけ込み、その地に安定した地盤を持つことが必要ではなからうか。

次に、筆者が現地（ブエノス・アイレス）において、一番関心を持つて考えたことは、日系人企業との合併或いは吸収ということであつた。〔二〕の項で述べた如く、勿論、亜国の経済及び産業界への参加ということを考慮し、ある種の日系企業の中には日本人に適して、もつと本格的に投資をしていくだけの将来性のあるものがあるという事を認識すべきではないであらうか。前述した如く、潤器製造工場、又は総合的養鶏業などはどうであらうか。農業方面では果樹園などの経営もおもしろそうである。又日本より進出しようとする企業は、必ずしも自己の企業にこだわる必要はなく、又直接に生産活動に入らなくとも土地や森林

などの不動産を買いこんでおくのも一つの企業進出の方法だと思う。それから、今一つ、為替上の問題であるが、特に新設の進出企業の場合には、企業が軌道に乗るまで運転資金が絶対必要であり、それらに対しては為替差損を、本社の利益課税より免ぜさせると云う様な税法上の措置も考えるべきであろう。一方、これは、日系人資本家がしばしば指摘することであるが、日本に本社を持ち企業進出をしている、或いはこれからしようとしている企業の現地に於ける姿勢の問題である。彼等の進出態度は極めて消極的で、近視眼的な判断が大方なのである。すなわち、その企業のみ利益、又日本側のみ利益が常に進出のキーポイントになっており、それは世界の社会経済情勢をみれば当然のことであるけれども、世界の経済開発に貢献するという立場に立つて、もつと本格的に腰を落着けることが大切なのである。その意味で、現在の進出企業はその定着程度は低いと云えよう。このことはブラジルの企業進出についても同様のことがいえるらしい。極端に云えば、本社の駐在員などが、二・三年で帰国してしまつたり、毎日本社への報告書きで仕事が終わっているのは、まだ本当の企業進出でないということである。

③ 結 論

現実の問題として、日本の企業進出を考えると、亜細に於いて、昨今では徐々に政治経済の回復に伴ない、又他国の対亜協力に関しての亜細政府側よりの特別な要望もあるため、日本にとっては、この辺で亜細に於ける日本からの企業進出の遅れを取戻す絶好の機会ではなからうか。著者は、この調査テーマに“可能性”という消極的な言葉を使ったが、現在はもうそのような段階ではなく、日本政府自身でそれに関するしつかりした基礎調査をし、困難的な援助の下に、民間とタイアップして行かなければならないと考える。しかし、それは、あくまで日系コロンビアと結びつきながら進められて行くべきであり、そうすることが日本からの企業進出のスムーズな発展を助け、又日系コロンビア自身の地盤強化にも結びついて行くのではないだろうか。

◎ 最 後 に

昨年6月15日ブエノスに着いてより12月まで約6ヶ月間の実習調査であつたが、研究不十分で、中途半端な調査報告になりましたことをお許し願います。

ブエノス・アイレス市近郊外における 花卉栽培業及び養鶏業の経営問題

島田 孝一
(早稲田大学政経学部)

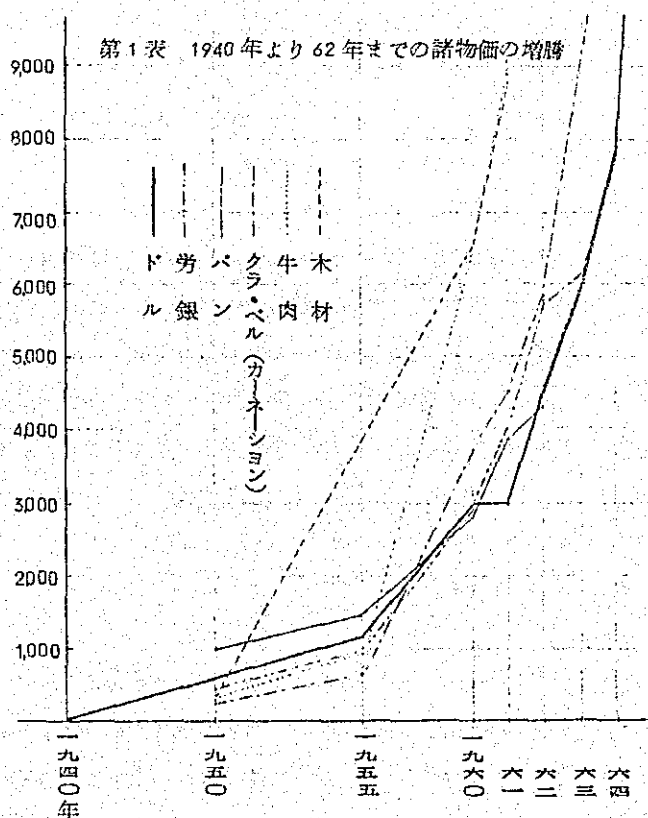
I 序

アルゼンチン経済の基盤は、第一次産業、特に農牧業に重点が置かれており、就中、過去、現在ともに外貨獲得の重点となつている商品は、肉・小麦である。しかるに、ここ数年来、相続く天候不良、特に旱魃により国内に於ける肉牛の増殖率が停滞した為、政府は肉類の国内消費市場に供給する量を減らし、海外市場に出来るだけ供給している。この為、国内での肉の小売り価格は著しく騰つた。

(第1表参照)

この様な経済現象の中で、今まで、肉牛を多量に消費していた国民は、他に肉を求める様になつた。この気運に乗じて、養鶏が注目を浴びて来たのである。

一方、日系人社会に於いて40数年の歴史を誇る花卉栽培は現在日系人経営者600名、ドイツ人・ポルトガル人等を含めて2,500名に達し生産者取引に於いては、年50億ペソ(約2,500万ドル)の取引市場を持つているのである。



花卉は、所謂非必需品であり、その為、消費弾力性の弱さを感じさせているが、ラテン系民族の花に対する讃美と、花の価格が常に劣質、一般消費物価に遅れて上昇した為、消費市場は維持され、販売量も年々若干作ら増加して来ている。しかし、観賞植物としての特殊性から花卉栽培に於ける市場性は限られており、今後、花卉栽培者の増加が可能であるかどうかは疑問である。

そこで、今後もアルゼンチンへ送り出される移住者の選択する職業が花卉栽培に集中することの是非に就いて、又、現在有利であると言われていた養鶏の調査は意義あるものと考え、その将来性を、現在の経営上の問題を通して見ることにする。

II 花卉栽培に伴う経営の問題

a 三段階の変遷

集約農業経営形態に属するアルゼンチンの花卉栽培が包蔵する最大の問題点は、現地労働者の技術の低さと、労働意欲、技術吸収意欲の欠乏であり、これは、政治の貧困に起因すること大であることは幾多の人々によつて述べられて来たのであるが、再びこゝで強調する必要がある。——労働問題に就いては別項に記する。——

440 数年の歴史をもつ日系人花卉栽培の過程より、アルゼンチンに於ける花卉栽培経営は、次の三段階に分類することが出来よう。

経営初期——10年——

この時期の経営に於いては、土地・設備（機械・温室等）・自己の労働力全てが新しい条件の中に有り、問題は最も少ない。

往時40 数年前、アルゼンチンに渡り、栽培を始めた初期に於いては、その販売市場が未知数・未確定であり、販路確保にその多くの労力が費されたが、この問題は、既に産業組合の形態で解決されているので、新しく経営を始める人々の問題は、むしろ限られた資本を如何に利用して、最大限の利潤を挙げるかという経営の方法にある。ともあれ、経営初期にはこれ等の有利な条件の下に於いて投下資本の回収も早く、大体将来への基盤が仕上げられる。

中期——10年——

初期に固めた基礎に立脚し、自己の経営・管理能力を最大限に拡張する為の新段階に入る。この時期から起る問題は、労働力構成上その依存度が今までの家族主体から、現地労働者（雇傭労働力）に相当量転換されることである。又、土地の疲弊、即ち、肥沃度の

低下による追肥量が増加してゆくと共に、病虫害も増えて来ることである。

後 期 — 現 在 —

諸設備の老化に伴ない補修費の増大・管理能力の低下が現われて来る。しかし、今日興つてゐる、より重要な問題は、政府の労働政策の無計画・無謀なる施策にあり、労働問題に於いて最大の被害を被つてゐるのが、中小企業形態を採つてゐる農業経営者である。その上、生活必需品ではない花の価格は、常に変動を来たすアルゼンチンの金融・労働賃金・一般物価の上昇に遅れるのが常である為、その経営も極力家族稼働力の活用・機械化を計り労働者の雇用を押えているのが現状である。しかし、果してこの労働を全て機械にて補う事が出来るであろうか。難しいということが言えよう。何故ならば、観賞用物件の生産を目的とする花卉栽培に於いては、必ず人間と花との間にある、微妙な感情の流れと技術を非常に多く必要とするからである。

b 経営の安定化

従来、花卉経営には健全な性格が乏しかつたと言ふことが出来よう。というのは、大陸性気候の下にある、これ等中南米諸国の農業界が投機的経営の性格を帯びることは、現段階に於いてやむを得ない事実と言へるからである。しかし、技術面に於いて、又資本面に於いても投機的性格は徐々に排除されて来ており、現存市場のみでは、地方の気候的・地質的条件に恵まれてゐる処からの流入に依り、価格の変動を来す為、より広汎な販売市場と正反対の季節にある欧州へと目が向け始められている。かくして、より広汎な、安定的な販売市場の確保に依り、経営面から投機的な性格を除いていくのが望ましい道であろう。

c 現在栽培されている花々

欧州移民の多いアルゼンチンに於いては、一般に花に対する観賞力は高い。その為、花卉業者の目は常に欧州（オランダ、英国、フランス等）や米国に向けられ、新品種を取り寄せ、栽培試験を個々人で研究努力して、アルゼンチン風土に適した品種の開発や、人々の嗜好に合つたものを選択栽培している。

イ カーネーション

白 色 種

インプロ・ホワイト・シム

CC・ホワイト・シム

赤 色 種

アニベルサリア

エンバーシム

スカニア・シム

OCレッド・シム

カルディナル・シム

桃 色 種

フレツシュ・ピンク

黄 色 種

クリーム・イエロー・シム

シヨツキング

ポートレイト・シム

其 他

タンゼリン・シム

混 合 種

ペパーミント・シム

シム・スポーツ

ロ 菊

大輪早生種

ニベルユンベ

スプレーム・ブロンセ

ハーベスト・ムーン

マーケットター

中 性 種

レモン・グイーン

ノーニング

スミス・ラテイ・ホワイト

チャタノーバ

晩 性 種

クリーム・ソンロー

スノーライン

中性種早生

スパー・ロテイオ

ドアード

インディアナポリ

ブラジン・ゴールド

スノー・ホワイト

中 性 種

ポーチャ

ドクトル・ヂヤンネ

晩 性 種

デイセンバ・キング

ハ バ ラ

ベター・タイム

エクリツプス

ハビネス

モ ニ カ

モンテ・スマ

スーベル・スター

バカラ

ニ 其 他

極楽鳥

グラジオラス

ホ 鉢 物

シクラメン

ラ ン

ベゴニア・レツクス

エレーチヨ

ゴメーロ

サンシベリア

アマリリス

ゴムの木

等である。

d. 肥料

カーネーション温室の施肥量は（他の花にも言える）、その土地の条件に非常に左右される。一般に使用されている肥料は、牛糞、骨粉、鶏糞、ニトロフオスカ、アンモフオスカ等がある。三要素の施肥量と土地耕作年代との関係は、肥沃な処女地に於いて、1 ha 当り窒素 7 Kg、加里 7 Kg、磷酸 9 Kg、5年目の土地では、窒素 12 Kg、加里 12 Kg、磷酸 15 Kg、10年目に於いては、窒素 18 Kg、加里 22 Kg、磷酸 25 Kg というのが標準量になっている。

菊は、大体、カーネーションの後作（カーネーションの連作を避けるため）として作られる為、その施肥・追肥は少ない。1温室につき、海鳥糞 2 俵（1俵 60 Kg）、骨粉 2 俵（1俵 60 Kg）、過磷酸石灰 1.4 Kg の割合で施肥されている。

e. 販売市場

—— 革命時でも花は売れている ——

ブエノス・アイレス市とその近郊に於ける人口は、既に 670 万人を突破しており、この大きな市場を背景に、花卉栽培業者は経営を維持している。花という非必需品を供給することの不安定さは、通常、言を俟たないところであろうが、年々増加する花卉生産者とその生産量を常に消化してゆくのは、ラテン系民族の生花に対する讚美に外ならないと共に、過去に於いて、生産者の販売市場拡張への努力が今日ある市場の基礎となつているのである。

この市場の将来性の問題点に就いても、過去に色々と臆測され、常に伸び悩んでおろりと観測されて来たのであるが、その心配もなく今日まで続いて来ている。この事実は、生産が消費に対する相当の弾力性を持つているものと断定することは疑問であるが、まだ伸びるものと見て良いのではないだろうか。

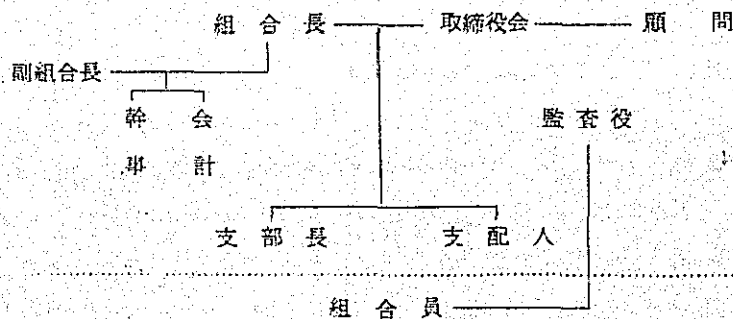
f. 販売組織

経過—— 1930年代に於いては、花卉栽培者自身が生産物の販売に歩いて廻つた。この様な状態から始まつた販売形態が、1938年1月に、各地域別の花卉同業組合を集大成した、「花卉同業組合連合会」を結成した。1940年、同組合の中に日系人に依り、「ニッパル花卉産業組合」が結成され、これが現在の「アルゼンチン花卉産業組合」の母体となつた。これは、産業組合運動の一つの画期的な転換であつた。というのは、従来の「花卉組

合連会社」の組織に於いては、花商が資本的に弱者の立場にある花卉栽培業者を押えて、大株主となつて運営していた為、常に両者の利害が対立して、花商側にその利益が吸収されていたからである。従つて、「アルゼンチン花卉産業組合」が組合員を生産者のみによつて構成したことは、生産者の団結により、従来の中間搾取に依る利益の半減が是正され、正当な生産者価格が維持されることを意味しているのである。現在、花卉栽培が安定しているのは、この事実があるためである。

1948年、花卉産業組合の中に委託販売部が設置された。この設備は、販売の協同化に依る商品の正当なる価格での販売を目的としたものであるが、生産者（組合員）が花を販売部を通じて市場に出すか、自分自身で各花店に下すかは会員の自由意志に任せてある為、当初（1948年6月）、組合員総数1515名中205名、現在に於いてすら総数の約3分の1に過ぎない572名の委託販売者しか居ないという状態は、組合の意義とその利用に対する認識の不足と、組合育成への自覚欠如ではないであろうか。この組合には、アルゼンチン国内の生産者の加入が認められている。

組織例「アルゼンチン花卉産業組合」



B 労働問題に就いて

中南米の労働者の質に関して云々される時、常にその低さが指摘されるのであるが、確かに、その様な一般的傾向が見られる。花卉、養鶏業に於いては、単に仕事のみではなく他に特殊な技術・感情（花・鶏への愛情）が要求され、これ等の仕事に対する影響力は大きい。この質以外に、欧州先進国よりの移住者が多い中南米に於いて、表面的な社会福祉政策——欧州先進国の生活水準を模倣して——を、この「経済組織の遅れ」を持つアルゼンチン政府が実施していることに対しては疑問を投げかけざるを得ない。何故ならば、在亜中、以下の

経験をしたからである。1964年9月に制定された最低賃金及び扶養手当に関する法令の国会通過は、ペロニスタの圧力と、政府の一般労働者への人気取り政策のための一環である事には疑問がない。確かにこの法令は、大企業にとっては当然の、影響の少ないものであるが、農業生産者にまで適用されたことは、彼等経営者を機械化営農へと早急に進める反面農業労働者の多い当国では失業者の増大を見るであろう。実施前の最低賃金は手取6,500ペソ、現法令による最低賃金は手取り8,600ペソ、其他に妻に対して2,000ペソ、子供1人に700ペソ支払われる。とは言え、失業者になる労働者の中には、巴むを得ず経営者との話し合いにて、前賃金、又は扶養手当を受けずに働いている者も居ることを知る必要がある。

III 養 鶏

近年アルゼンチン国内の肉牛の減少は、消費市場の増大と相俟つて、養鶏業の促進を助長している。とは言え、過去に於いて存在しなかつた訳ではない、相当の羽数を有しながら企業として、あまり顕みられなかつたのである。というのは、食料、特に肉牛の豊富さの為に、手数がかり、値段の上でも高い鶏肉に対して目が向けられなかつたからである。

(アルゼンチンに於ける鶏数：第2表、同・牛数：第3表参照)

第2表

年	鶏 (採卵用)	鶏 卵 単位ダース
1946	47,000,000	186,800,000
47	52,040,000	150,000,000
48	46,150,000	180,000,000
49	50,000,000	200,000,000
50	50,000,000	200,000,000
51	47,300,000	180,000,000
52	46,836,540	200,000,000
53	47,836,000	210,000,000
54	47,000,000	240,000,000
55	48,000,000	240,000,000
56	45,000,000	250,000,000
57	48,000,000	250,000,000
58	50,000,000	260,000,000
59	50,000,000	270,000,000
60	50,000,000	290,000,000

第3表 アルゼンチン畜牛統計

年度	飼育頭数	屠殺頭数	屠殺比
1955	43,978,350	9,460,088	21.5%
1956	46,940,280	11,181,733	23.8%
57	43,979,655	11,536,534	26.2%
58	41,327,343	11,877,747	28.6%
59	41,167,357	8,748,250	21.2%
60	43,508,787	8,459,167	19.4%
61	43,164,522	9,812,265	22.8%
62	42,552,433	11,590,463	26.1%
63	40,112,219	11,500,000	28.0%

(注) 1955-63年平均屠殺比24.2%

現在の鶏の分布状態

ブエノス・アイレス州	32%	1,600,000千羽
エントレ・リオ州	20%	1,000,000千羽
サンタ・フェ州	15%	750,000千羽
コルドバ州	13%	650,000千羽
其 他	20%	1,000,000千羽

この分布状態をみると、中部を中心に北部に偏在しているが、これは、ブエノス・アイレス市、ロサリオ市、サンタ・フェ市、コルドバ市という大消費地を控えていることにある。牛の様には長距離輸送が可能な、又、通常一頭当たり約1町歩の面積を必要とするのとは異なり、大消費地に近接して小面積にて経営出来るケージ養鶏の普及は、今後より一層都市近郊を中心として盛んになる可能性を十分に持っている。

日系人が養鶏に手を出し始めたのは、つい最近であり、まだ経営者の数も少ない。その分布状況は、ブエノス・アイレス市近郊12名、コルドバ市16名、サンタ・フェ市8名、ロサリオ市2名となつている。その中、養鶏を専業としているのは、コルドバとサンタ・フェだけであり、ブエノス・アイレス、ロサリオでは花卉栽培と兼業している人が殆んどである。これは、花卉栽培からの一部資本の転化と、温室の骨組の鶏舎利用や、鶏糞の肥料利用等により、無駄なく生産が出来ることによるものである。しかし、この兼業は、自家労働力に余剰がある場合可能となる。というのは、管理を一任出来る質の良い現地労働者を得ることは甚しく困難であるからである。一般にブエノス・アイレス州に、種鶏専門者が集中しているのであるが、日系人の間では種鶏を行なつている人が少ない状態である。何故なら未だ歴史も浅く、養鶏に関して素人が殆んどである為、種鶏を行うまでに到達していないからである。アルゼンチンの養鶏業は、これから伸びようとしているのであるが、残念なことに、政府の片ちんばな政策が、新しい芽をつむ様な方向に向いている。それは、生産者の引渡し価格を、卵1ダース当り、45ペソ、ヒナ1羽、83ペソの値に押えていることである。これが生産者・卸商・小売商の全てに規定価格があるのなら別問題であろうが、卸・小売には何等の規制もないことは甚しい矛盾である。それに加えて、最近の飼料の値上りは（数年間に倍になつている）、より一層生産者の立場を悪いものにしてている。最近、農業生産者から不満の声が現われ始めた。今後イリア政権の施策如何によつては事業の見通しも相当変つて来るであろうが、一般的に楽観的な見方が強い。

現在産卵率は高くなつて来ている。1960年代には、年170~180個であつたのが、

現在は、200個に伸びている。(飼料と卵の関係：第4表参照)

第4表

飼料と卵の関係 (1ドル=85ペソ当時)

年	1ダース当りの 売 値	100Kg当りの養 鶏業者の飼料価格	飼料と卵の関係
1959	20.01ペソ	380ペソ	18.99
1960	24.62ペソ	450ペソ	17.40

鶏 卵

産卵数 支出	150個	170個	190個
生産費	15,620ペソ	14,174ペソ	13,053ペソ
利子	1,700ペソ	1,500ペソ	1,342ペソ
償却	0,332ペソ	0,293ペソ	0,262ペソ
1ダース 当りの費用	17,652ペソ	15,207ペソ	14,659ペソ

最近アルゼンチン人の中にも、鑑別技術を身に付けた人が現われ始めたが、まだまだ人材が不足しており、日本から来た鑑別師が引つぱりだことであることは、この国の養鶏技術の浅さを物語るものであろうが、それと同時に、日本人の養鶏技術の習得者が、今後大きく伸びる可能性を持っていると言えよう。現在1羽の雛の鑑別料は、1~2ペソ(3~4円程度)である。

既に、アルゼンチンには、ブエノス・アイレス市より200Km地点に世界的にその販路を持つ、Oobbが養鶏所を持っているのである。(残念ながら、その規模を知ることが出来なかつた)その他、米系資本が多く入つて来ていることは、今後より多くの外国資本を招来させるものとして注目すべきである。販売に就いては、未だ大きな同業者の組織を持つに至っていない。日系人生産者に関して彼等が第一に同胞による組織を考えることは理解出来るが、言語の不自由さを乗り越えて、他民族との団結を計り早急に組合編成を計るべきであると思ひ。もつと有利に、大幅に大市場への進出を計れるのではないか。(ブエノス・アイレス市、ロサリオ市の市場に入荷する卵数：第5表参照。1ケージ・8m×40m 約700羽収容。1500羽に対する、1ヶ月の飼料代、4万ペソ。1人で普通1500~2000羽管理する。品種は、白色レグホンが主で、雑種一代、ハイライン種。)

最後に、コルドバに於ける(特殊な人で、一般的例ではないが)一養鶏家を見ると、7年前に花卉栽培より養鶏に資本を移し、現在、保有数は、肉鶏・卵用鶏・種鶏・楫・合計3万羽に

達し、自家化、飼育、採卵、屠殺、販売全ての組織を有している。結局、自分で全ての機構を所有することは、中間搾取の甚しいアルゼンチン流通機構に於いて、自己防衛の最大の手段であり、経済上及び政府の制約から農産物経営者が解放される唯一の道である。

第5表 市場に入る鶏卵の数量

年	ブエノス・アイレス	ロサリオ
1947	41,459,520	—
48	43,997,220	—
49	45,466,770	—
50	43,588,106	3,850,410
51	47,906,250	4,312,120
52	43,271,490	4,402,800
53	46,683,900	4,607,640
54	46,892,540	4,900,150
55	46,109,940	5,095,400
56	46,795,400	4,613,230
57	39,418,410	5,068,110
58	42,030,120	4,292,860
59	16,390,020	5,200,600
60	25,948,860	3,562,320

終りに

当国で、花卉・養鶏を見る時、その本当の姿を見ることは容易ではない。常に浮動する政策の変化は、経営者にとって一挙手一投足その動きを観察し備えねばならない。

今後の花卉・養鶏の方向を見ると、花卉は欧州市場への流出が可能になるか否かが大きな鍵となる。と同時に、これからの経営は、機械化可能な面に機械を導入することによつて、人件費を低下させると言うことに尽きる。養鶏に就いては、早急に組合の結成を計り、試験所の設立等により養鶏に対する技術的研究を進め、組合員にその技術の普及を計るとともに、販売に關しての強固な組織を持つことが必要である。

最後に、筆をおくに當つて、アルゼンチンで資料を入手することの困難な現実にぶつかり、満足なる研究も出来ないまま、この調査報告書を書いたことを残念に思い、此処にその不勉強なことをお詫び致します。

LIB.